

令和3年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

令和3年10月

福島県

目次

	頁
I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査実施概要	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の構成	2
II 調査結果の解説	
1. 復興等に関する情報発信について	5
(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報	5
(2) 復興状況や新しい取組に関する情報の入手先	6
(3) 福島県の広報活動についての満足度	7
(4) 福島県の現状について県外に伝えたいこと	9
2. 安全で安心な県づくりについて	10
(1) 地域の安全・安心についての評価	10
3. 福島県の新しい総合計画について	12
(1) 福島県の現状についての評価	12
4. 福島イノベーション・コースト構想について	15
(1) 福島イノベーション・コースト構想について知っている取組	15
(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、 県に強化してほしい取組	17
(3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策	18
5. チャレンジふくしま県民運動について	19
(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況	19
(2) 心身の健康づくりの実践状況	20
(3) 心身の健康づくりを実践していない理由	21
6. ユニバーサルデザインについて	22
(1) 言葉の認知状況	22
(2) 製品や施設等に関するユニバーサルデザインについて	23
(3) 導入が必要なもの	24
(4) 取り組んだ経験	25
7. 自転車の安全利用について	26
(1) 自転車の利用頻度	26
(2) 一番の利用目的	27
(3) 自転車損害賠償保険の加入状況	28
(4) 加入している自転車損害賠償保険の種類	29

(5) 加入している自転車損害賠償保険の補償額.....	30
(6) 自転車損害賠償保険の加入義務化について.....	31
8. 食育について	32
(1) 食育の関心度.....	32
(2) 「食育月間」と「食育の日」の認知状況.....	33
(3) 共食の頻度.....	34
(4) 食育に関して実践していること.....	35
(5) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活の変化.....	36
9. 農林水産業について.....	37
(1) 農林水産物の購入や食生活で実践していること.....	37
(2) 農山漁村の役割として期待すること.....	39
10. 地域社会の安全・安心（治安）について.....	40
(1) 居住地域の治安状況.....	40
(2) 治安状況が良いと思う理由.....	41
(3) 治安状況が悪いと思う理由.....	42
(4) 犯罪発生状況等の情報提供方法.....	43
(5) 犯罪に関して知りたい情報.....	44
(6) 警察に強化してほしい活動.....	45
(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪.....	46
(8) 身近に感じる不安.....	48

Ⅲ 調査票様式

Ⅳ 過去に実施した県政世論調査項目一覧

●本報告書利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。
したがって、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。また、複数回答の質問では、比率の合計は100%を超えることがある。
2. 図表中の「n」は回答者総数（該当者への質問の場合は該当者数）のことで、100%が何人に相当するかを示す、比率算出の基数である。

I 調査の概要

1. 調査の目的

県政の課題等について県民の意識やニーズを調査し、具体的な政策形成等の基礎的な資料とする。

2. 調査実施概要

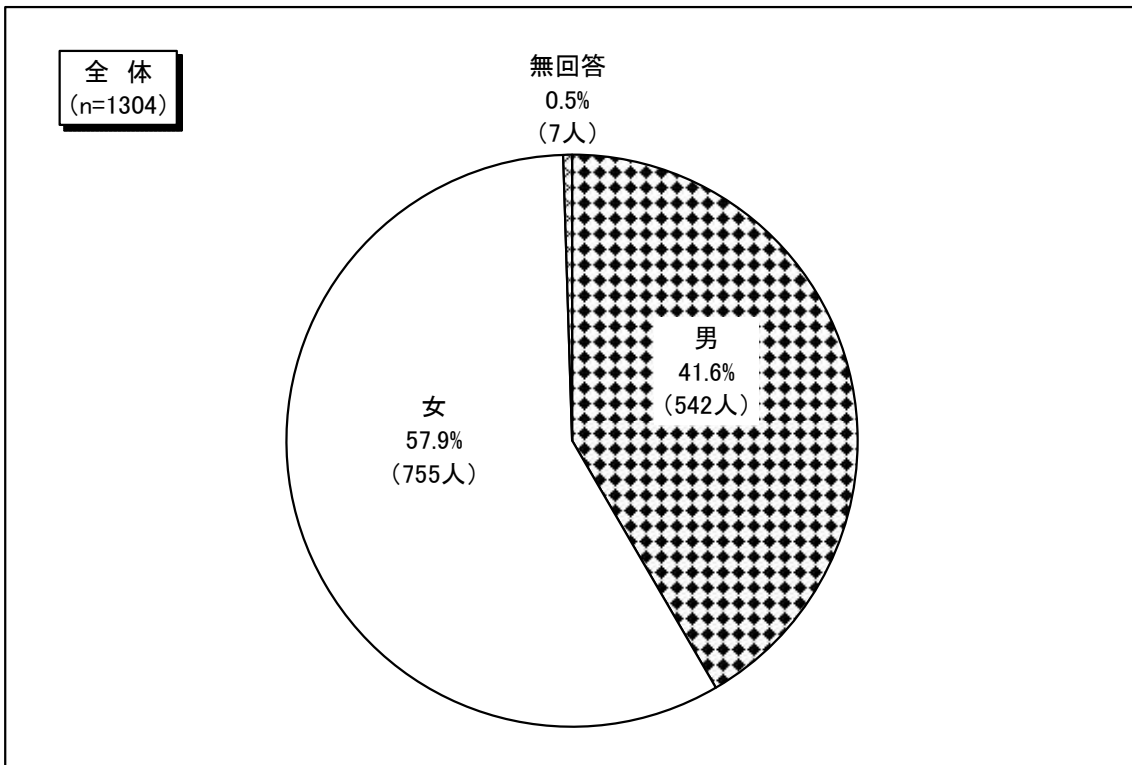
- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 福島県全域（35市町村を抽出） |
| (2) 調査対象 | 満15歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000（人） |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出
第1次抽出：「県北」「県中」「県南」「会津」「南会津」「相双」「いわき」の県内7地域をそれぞれ「総人口10万人以上の市」「総人口10万人未満の市」「郡部（町村）」の3グループに分け、各グループを1つの層とした。
各層の市町村別人口累積表により、等間隔に調査地点（市町村及び町丁・大字）を設定した。
第2次抽出：第1次抽出で得られた調査地点の住民基本台帳から、条件にあてはまる調査対象者個人を系統抽出した。 |
| (5) 基準日 | 令和3年7月1日
（抽出にあたっては上記年月日現在の満年齢を基準とした） |
| (6) 調査方法 | 郵送調査（自記式アンケート） |
| (7) 調査期間 | 令和3年6月28日～7月12日 |
| (8) 回収結果 | 有効回収数1,304（有効回収率65.2%） |

3. 調査項目

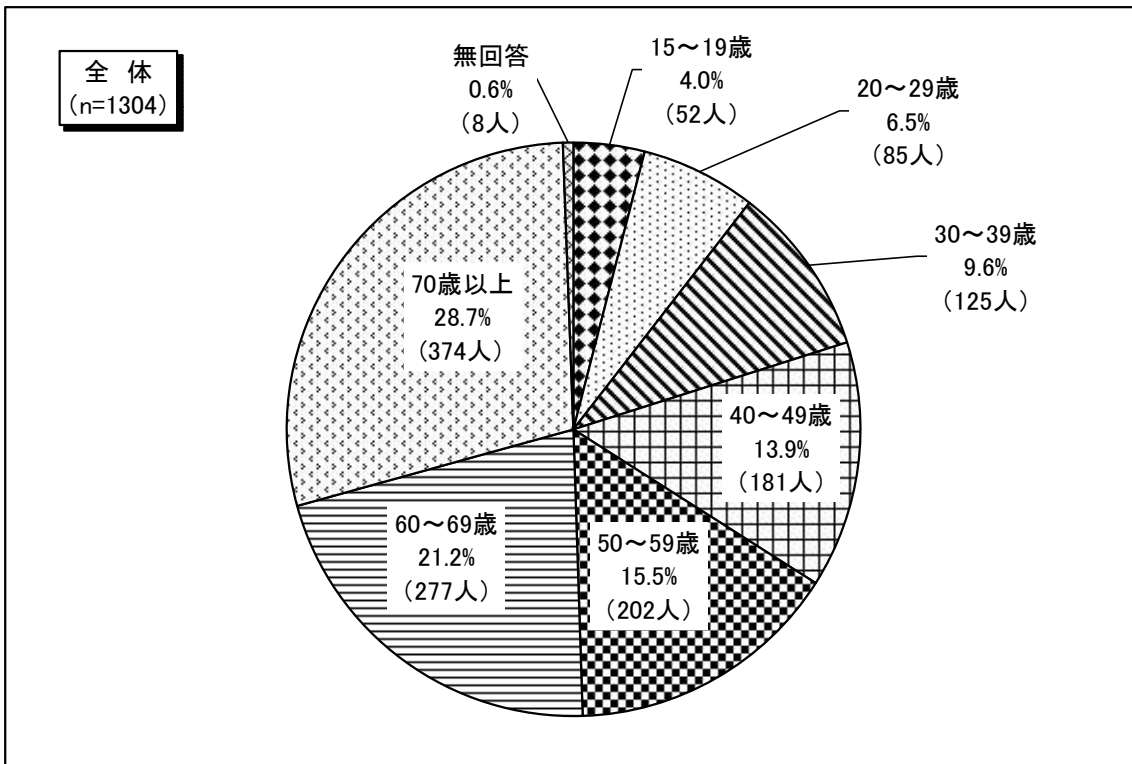
- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) 安全で安心な県づくりについて
- (3) 福島県の新しい総合計画について
- (4) 福島イノベーション・コースト構想について
- (5) チャレンジふくしま県民運動について
- (6) ユニバーサルデザインについて
- (7) 自転車の安全利用について
- (8) 食育について
- (9) 農林水産業について
- (10) 地域社会の安全・安心（治安）について

4. 回答者の構成

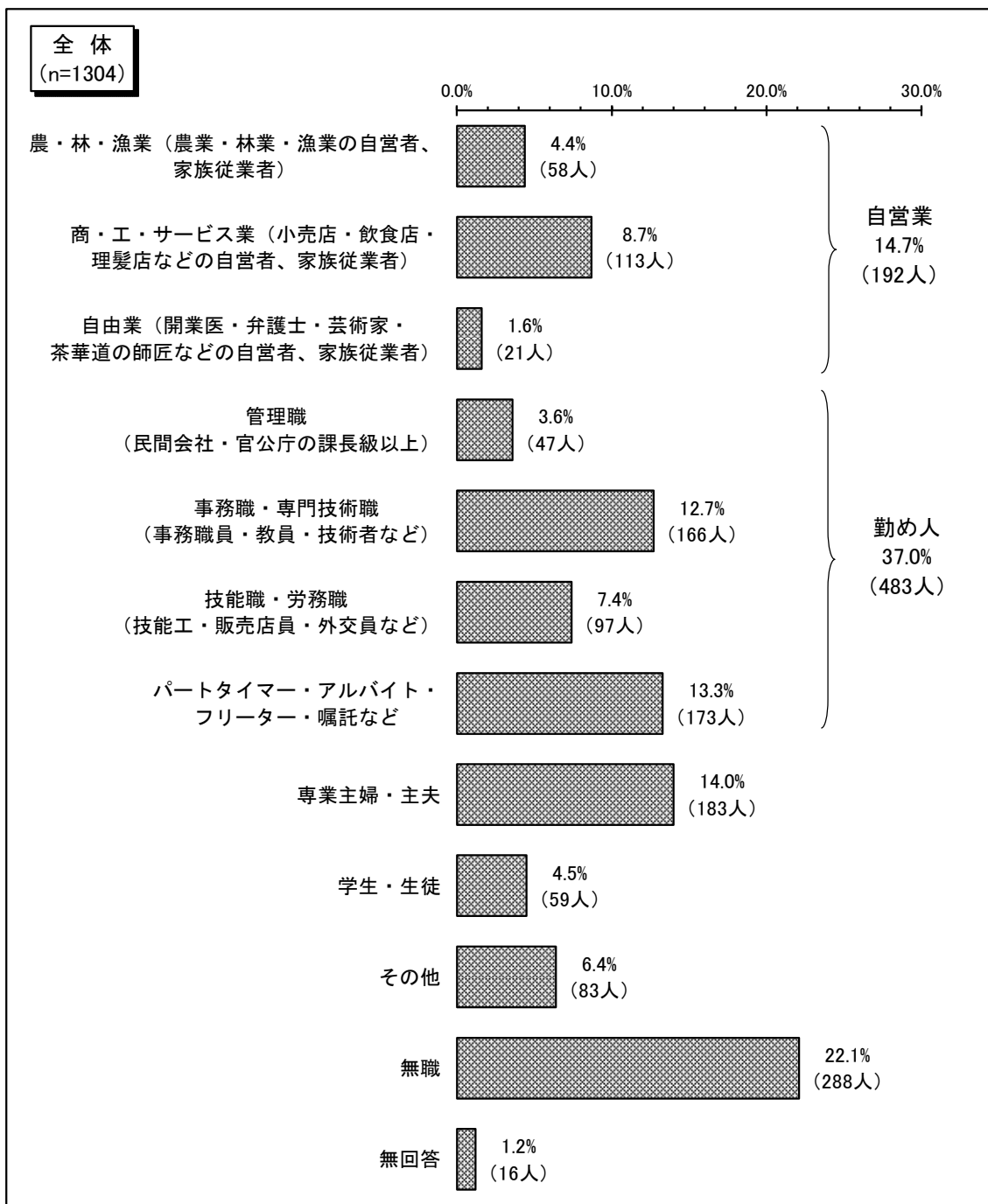
(1) 性別



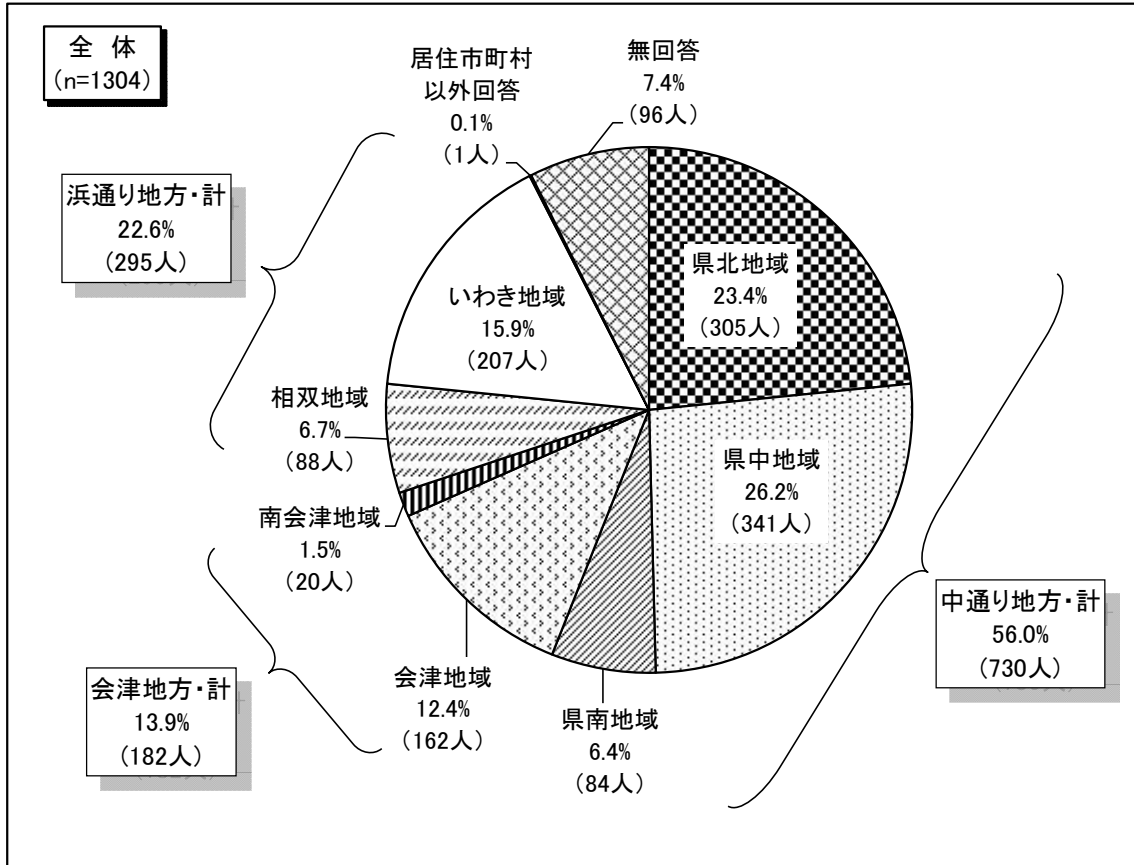
(2) 年齢



(3) 職業



(4) 居住地域



市町村別回答者数

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)
中通り 地方	県北 地域	福島市	172	13.2
		二本松市	42	3.2
		伊達市	40	3.1
		本宮市	22	1.7
		桑折町	10	0.8
		川俣町	12	0.9
		大玉村	7	0.5
		郡山市	210	16.1
	県中 地域	須賀川市	46	3.5
		田村市	23	1.8
		鏡石町	13	1.0
		天栄村	6	0.5
		玉川村	16	1.2
		浅川町	16	1.2
		三春町	11	0.8
	県南 地域	白河市	37	2.8
		西郷村	12	0.9
		矢吹町	11	0.8
		棚倉町	10	0.8
		塙町	14	1.1

		市町村名	回答者数 (人)	構成比 (%)		
会津 地方	会津 地域	会津若松市	79	6.1		
		喜多方市	33	2.5		
		西会津町	10	0.8		
		猪苗代町	16	1.2		
		会津坂下町	14	1.1		
		湯川村	10	0.8		
		下郷町	9	0.7		
	A	南会津町	11	0.8		
		浜通 り地 方	相双 地域	相馬市	20	1.5
				南相馬市	35	2.7
広野町	9			0.7		
楢葉町	8			0.6		
富岡町	8			0.6		
葛尾村	8			0.6		
B	いわき市			207	15.9	
	居住市町村以外回答	1	0.1			
	居住市町村別無回答	96	7.4			
	全体	1,304	100.0			

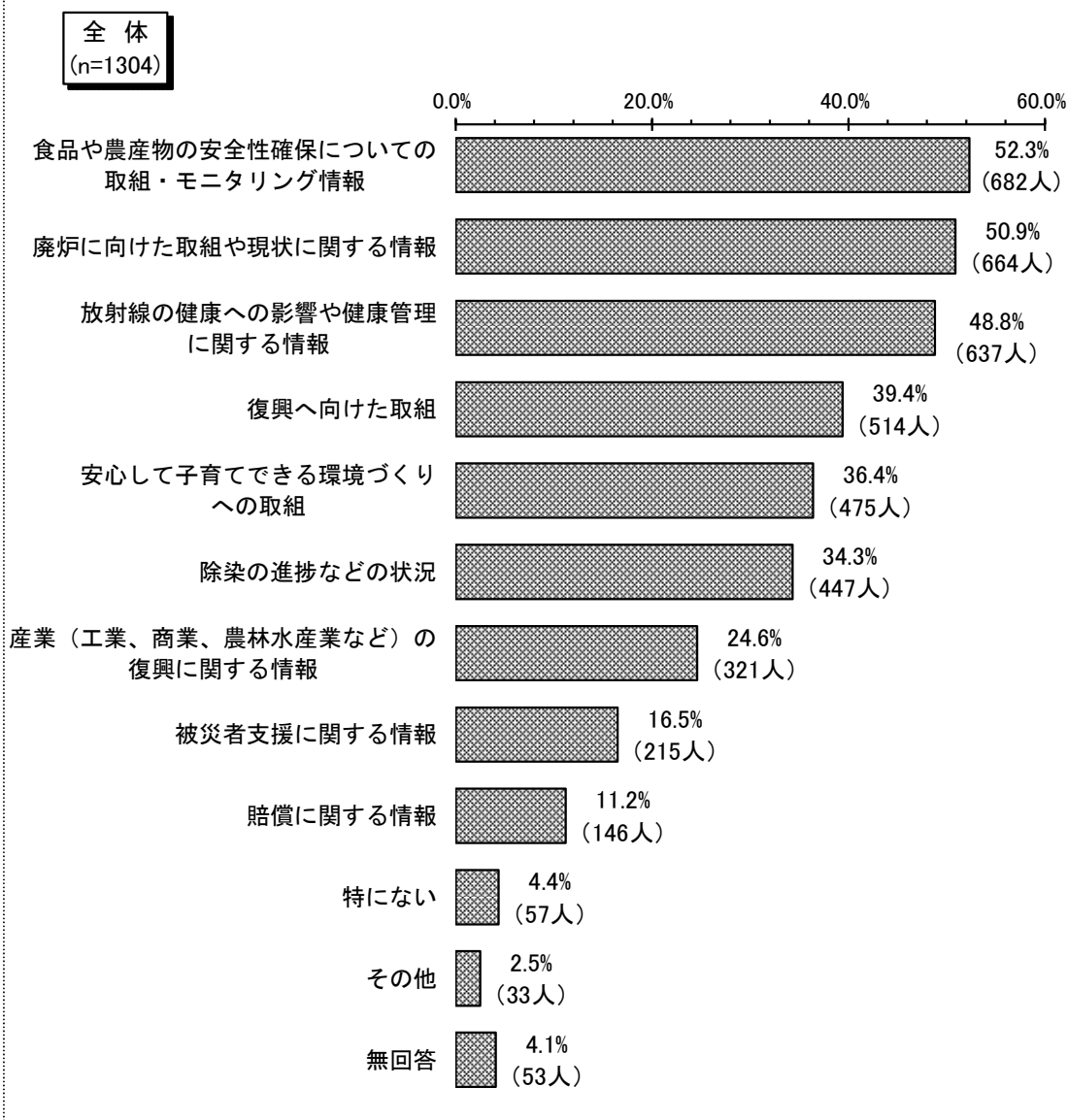
A 南会津地域
B いわき地域

Ⅱ 調査結果の解説

1. 復興等に関する情報発信について

(1) 震災・原発事故や復興について知りたい情報

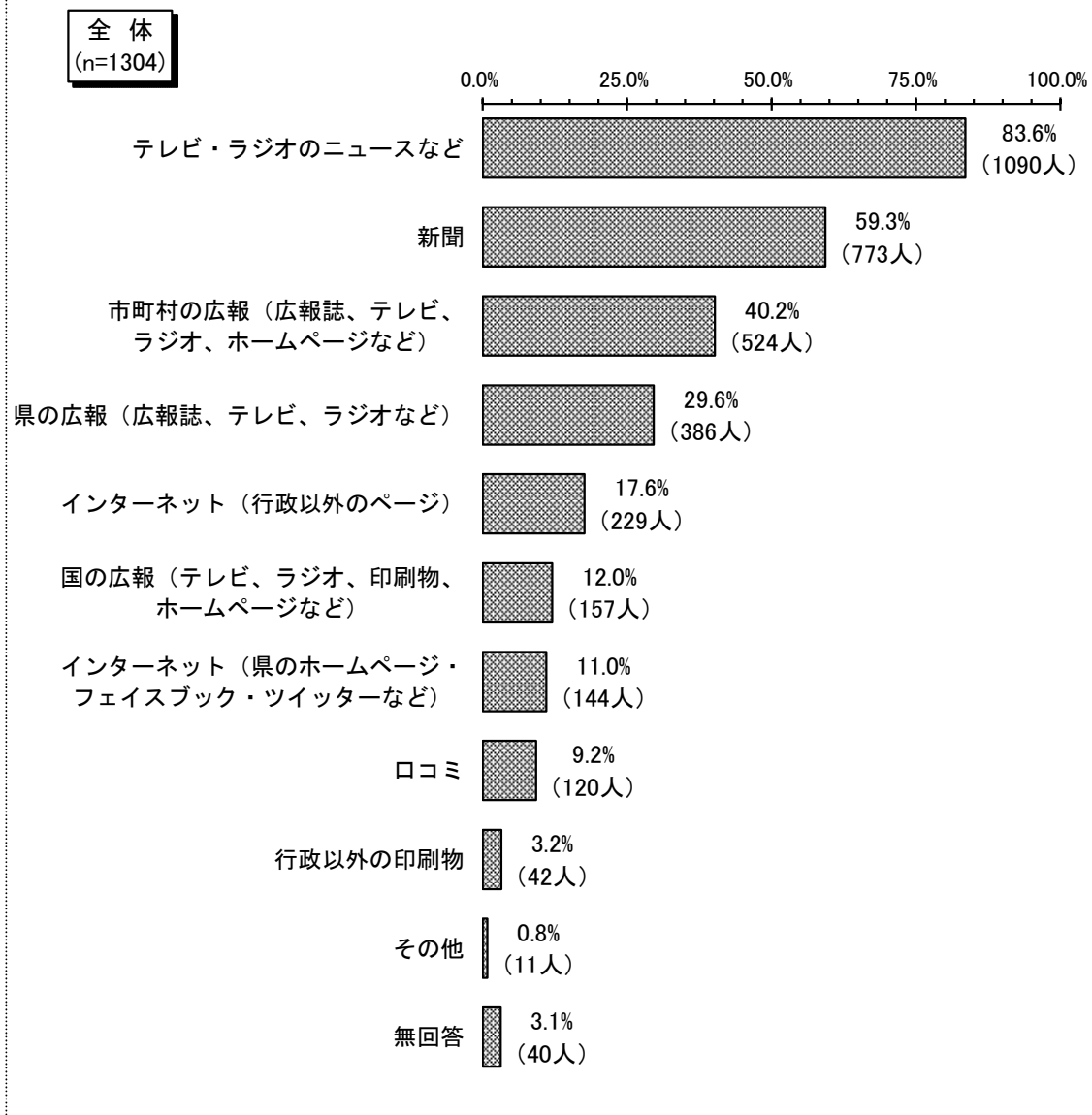
問1 震災・原発事故や復興について、あなたはどのような情報を知りたいですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



震災・原発事故や復興について知りたい情報は、「食品や農産物の安全性確保についての取組・モニタリング情報」(52.3%)、「廃炉に向けた取組や現状に関する情報」(50.9%)と「放射線の健康への影響や健康管理に関する情報」(48.8%)が約半数を占めている。以下、「復興へ向けた取組」(39.4%)、「安心して子育てできる環境づくりへの取組」(36.4%)と「除染の進捗などの状況」(34.3%)が3割台などとなっている。

(2) 復興状況や新しい取組に関する情報の入手先

問2 本県の復興の状況や新しい取組に関する情報については主に何で入手していますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

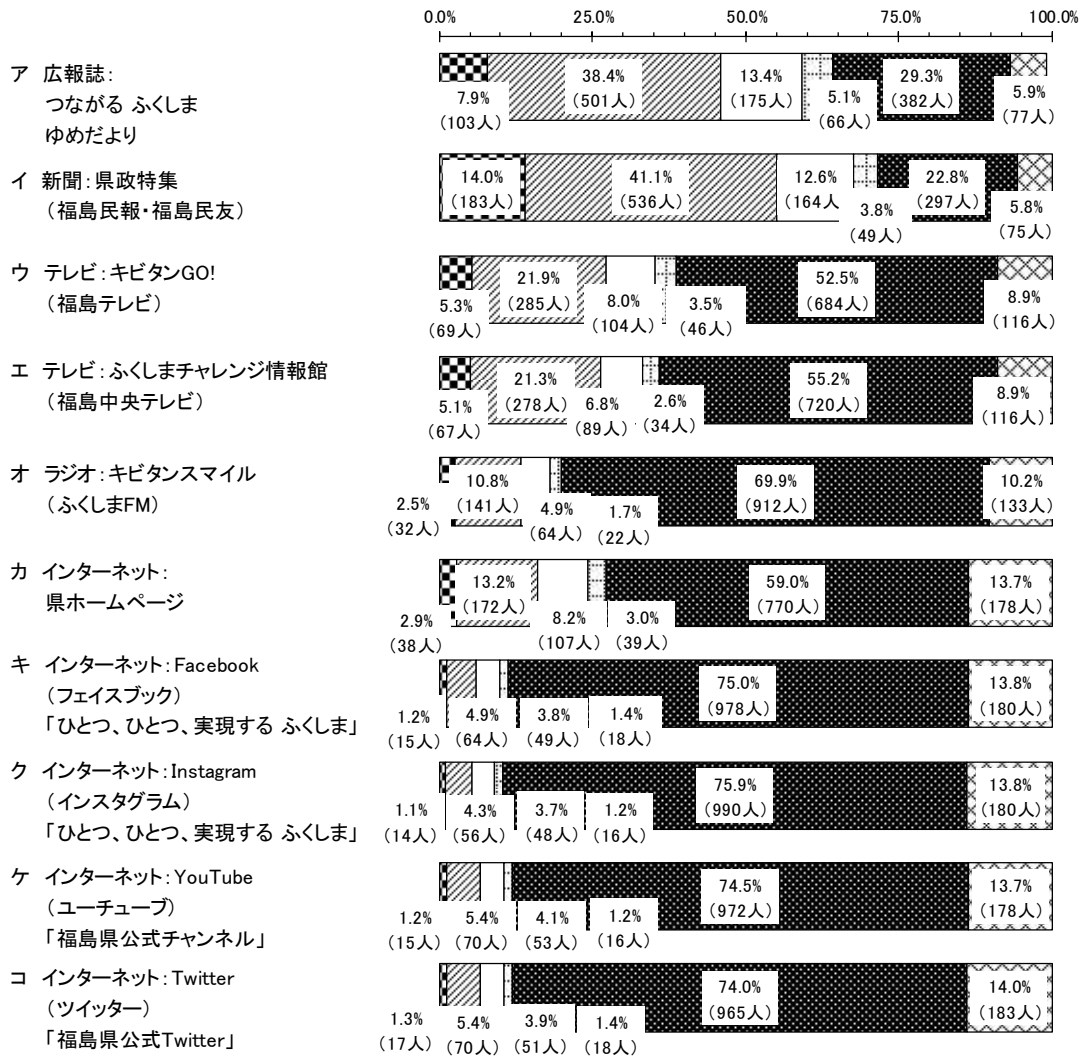
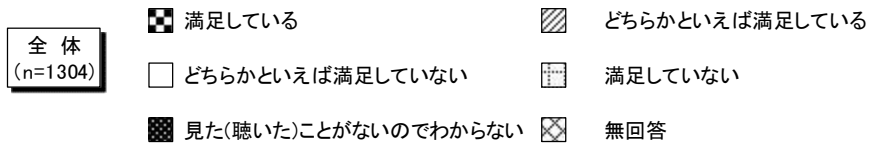


復興の状況や新しい取組に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオのニュースなど」(83.6%)が最も多く、8割強を占めている。以下、「新聞」(59.3%)が約6割、「市町村の広報（広報誌、テレビ、ラジオ、ホームページなど）」(40.2%)が約4割、「県の広報（広報誌、テレビ、ラジオなど）」(29.6%)が約3割などとなっている。

(3) 福島県の広報活動についての満足度

問3 あなたは、県の広報活動に満足していますか。

ア～コについて、それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

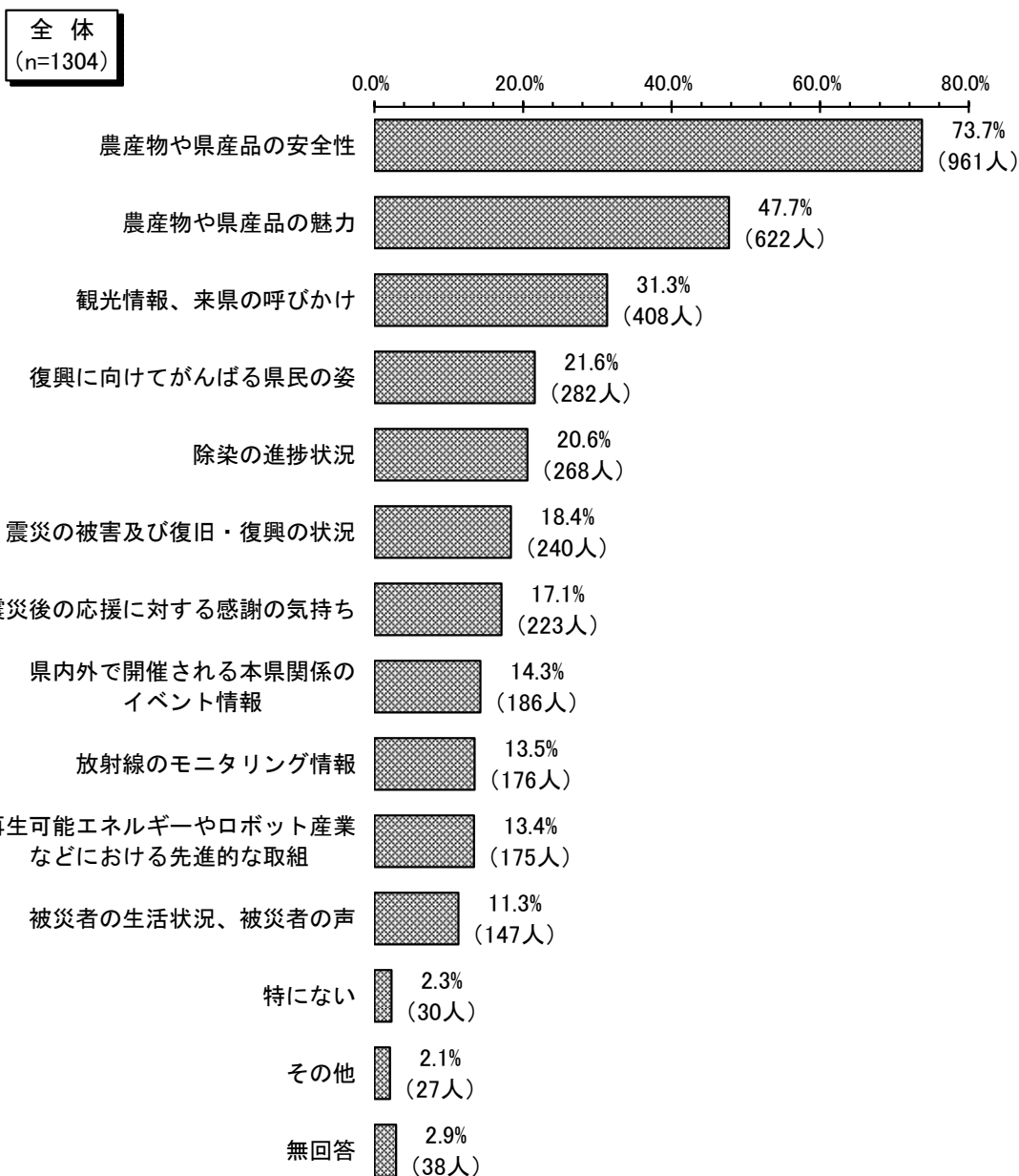


福島県の広報活動に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足している』計の割合をみると、〈イ 新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（55.1%）が最も多く、過半数を占めている。以下、〈ア 広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（46.3%）が半数弱、〈ウ テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（27.1%）、〈エ テレビ『ふくしまチャレンジ情報館（福島中央テレビ：毎週土曜日 20:54～20:57）』〉（26.5%）が3割弱などとなっている。

一方、「満足していない」と「どちらかといえば満足していない」を合わせた『満足していない』計の割合は、〈ア 広報誌『つながる ふくしま ゆめだより』〉（18.5%）が約2割で最も高くなっている。次いで、〈イ 新聞『県政特集（福島民報・福島民友）』〉（16.3%）が2割弱で続いている。以下、〈ウ テレビ『キビタン GO!（福島テレビ：毎週水曜日 20:54～20:58）』〉（11.5%）、〈カ テレビ『インターネット：県ホームページ』〉（11.2%）などとなっている。

(4) 福島県の現状について県外に伝えたいこと

問4 あなたは、県外の方に、福島県のどのようなことを伝えるべきだと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



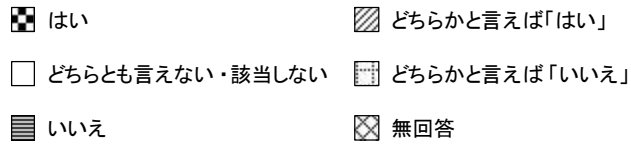
福島県の現状について県外に伝えたいことは、「農産物や県産品の安全性」(73.7%)が最も多く、7割強を占めている。以下、「農産物や県産品の魅力」(47.7%)が半数弱、「観光情報、来県の呼びかけ」(31.3%)が約3割、「復興に向けてがんばる県民の姿」(21.6%)が約2割などとなっている。

2. 安全で安心な県づくりについて

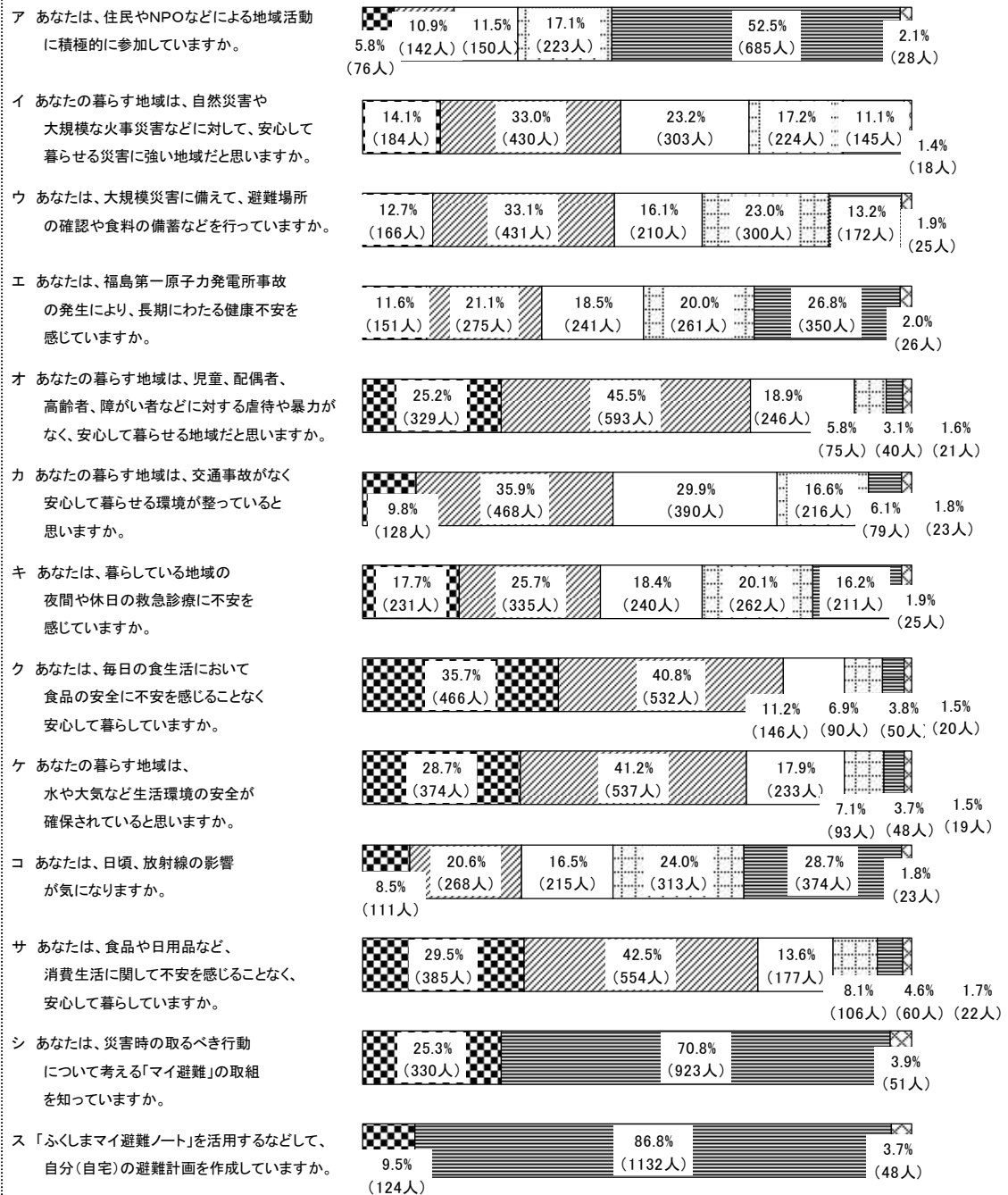
(1) 地域の安全・安心についての評価

問5 次にあげたア～スの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=1304)



0.0% 25.0% 50.0% 75.0% 100.0%



「はい」と回答した人の割合をみると、〈ク あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(35.7%)が最も高くなっている。以下、〈サ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(29.5%)、〈ケ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(28.7%)などとなっている。

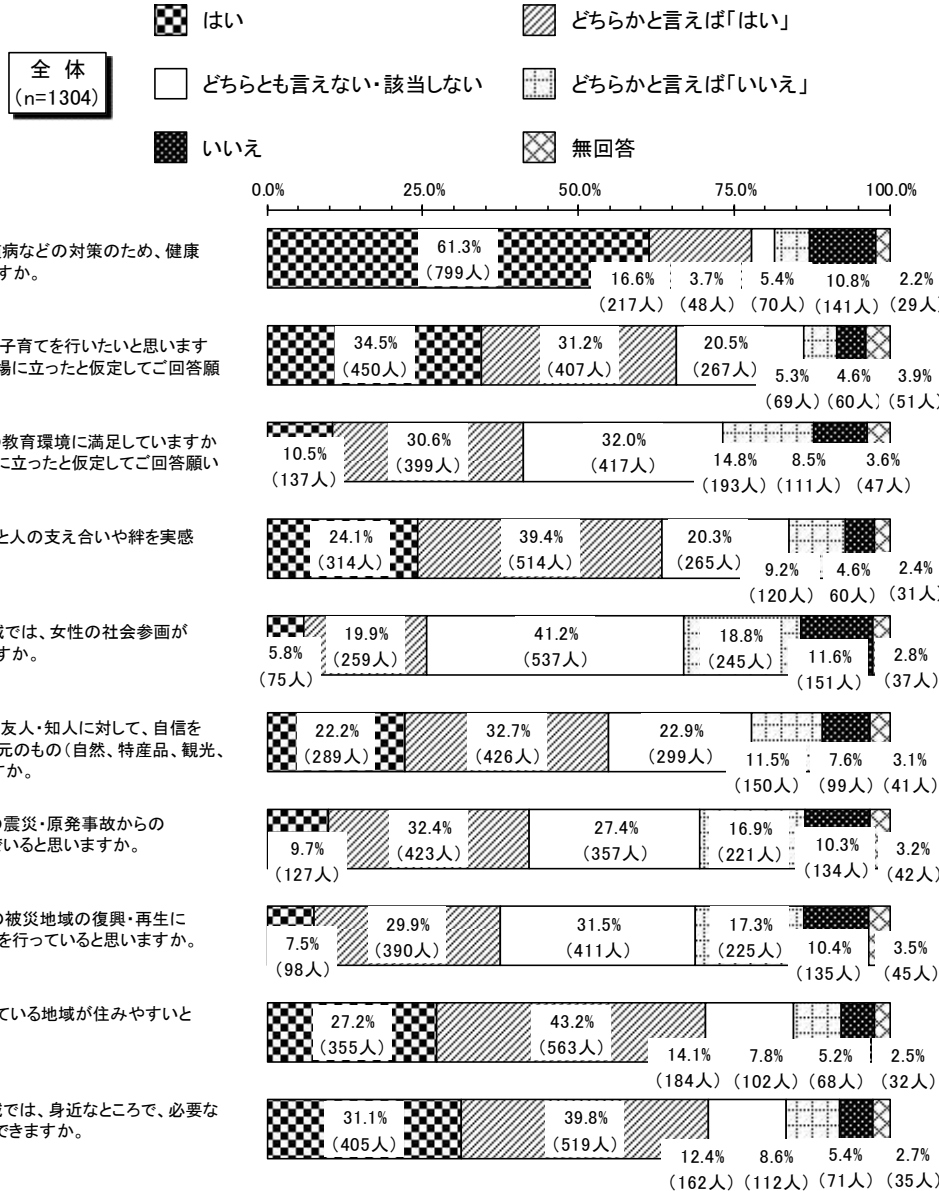
「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈ク あなたは、毎日の食生活において食品の安全に不安を感じることなく安心して暮らしていますか。〉(76.5%)が最も高く、8割弱を占めている。以下、〈サ あなたは、食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしていますか。〉(72.0%)、〈オ あなたの暮らす地域は、児童、配偶者、高齢者、障がい者などに対する虐待や暴力がなく、安心して暮らせる地域だと思えますか。〉(70.7%)と〈ケ あなたの暮らす地域は、水や大気など生活環境の安全が確保されていると思いますか。〉(69.9%)が約7割、〈イ あなたの暮らす地域は、自然災害や大規模な火事災害などに対して、安心して暮らせる災害に強い地域だと思えますか。〉(47.1%)、〈ウ あなたは、大規模災害に備えて、避難場所の確認や食料の備蓄などを行っていますか。〉(45.8%)、〈カ あなたの暮らす地域は、交通事故がなく安心して暮らせる環境が整っていると思えますか。〉(45.7%)と〈キ あなたは、暮らしている地域の夜間や休日の救急診療に不安を感じていますか。〉(43.4%)が4割台で続いている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈ア あなたは、住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していますか。〉(69.6%)が最も高く、約7割を占めている。以下、〈コ あなたは、日頃、放射線の影響が気になりますか。〉(52.7%)が過半数、〈エ あなたは、福島第一原子力発電所事故の発生により、長期にわたる健康不安を感じていますか。〉(46.9%)が半数弱などとなっている。

3. 福島県の新しい総合計画について

(1) 福島県の現状についての評価

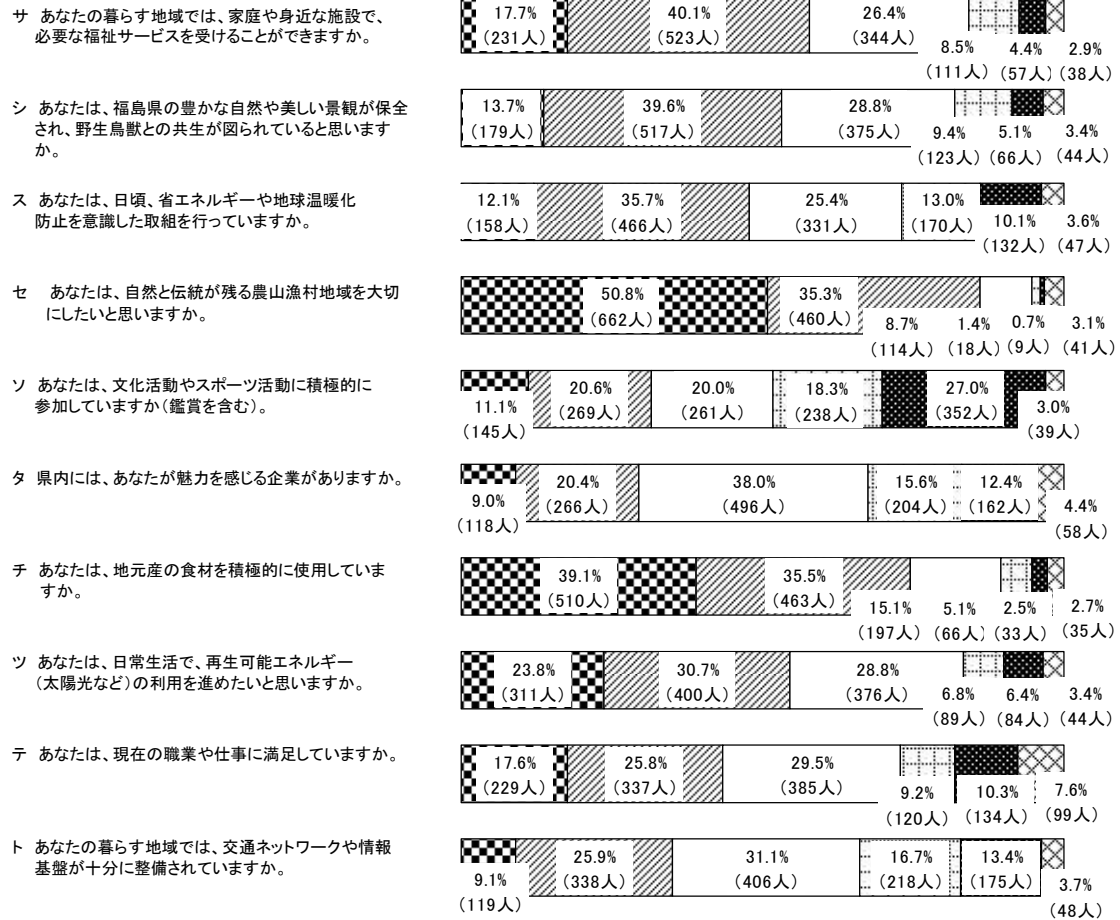
問6 次にあげたア～トの項目について、あなたは現状をどのように感じていますか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。



全体
(n=1304)

-  はい
-  どちらかと言えば「はい」
-  どちらとも言えない・該当しない
-  どちらかと言えば「いいえ」
-  いいえ
-  無回答

0.0% 25.0% 50.0% 75.0% 100.0%



「はい」と回答した人の割合は、〈ア あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(61.3%)が最も高く、約6割となっている。次いで、〈セ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(50.8%)が約半数を占めている。

「はい」と「どちらかと言えば“はい”」を合わせた『はい』計の割合をみると、〈セ あなたは、自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと思いませんか。〉(86.0%)が高く、9割弱を占めている。以下、〈ア あなたは、生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診していますか。〉(77.9%)、〈チ あなたは、地元産の食材を積極的に使用していますか。〉(74.6%)、〈コ あなたの暮らす地域では、身近なところで、必要な医療を受けることができますか。〉(70.9%)、〈ケ あなたは、今暮らしている地域が住みやすいと思いませんか。〉(70.4%)が7割台、〈イ あなたは、福島県内で子育てを行いたいと思いませんか(あなたが親の立場に立ったと仮定してご回答願います)。〉(65.7%)、〈エ あなたは、日頃、人と人の支え合いや絆を実感していますか。〉(63.5%)が6割台、〈サ あなたの暮らす地域では、家庭や身近な施設で、必要な福祉サービスを受けることができますか。〉(57.8%)、〈カ あなたは、国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)がありますか。〉(54.8%)、〈ツ あなたは、日常生活で、再生可能エネルギー(太陽光など)の利用を進めたいと思いませんか。〉(54.5%)、〈シ あなたは、福島県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると思いませんか。〉(53.4%)が5割台などとなっている。

一方、「いいえ」と「どちらかと言えば“いいえ”」を合わせた『いいえ』計の割合は、〈ソ あなたは、文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していますか(鑑賞を含む)。〉(45.2%)が最も高く、半数弱を占めている。以下、〈オ あなたの暮らす地域では、女性の社会参画が進んでいると思いませんか。〉(30.4%)、〈ト あなたの暮らす地域では、交通ネットワークや情報基盤が十分に整備されていますか。〉(30.1%)が約3割などとなっている。

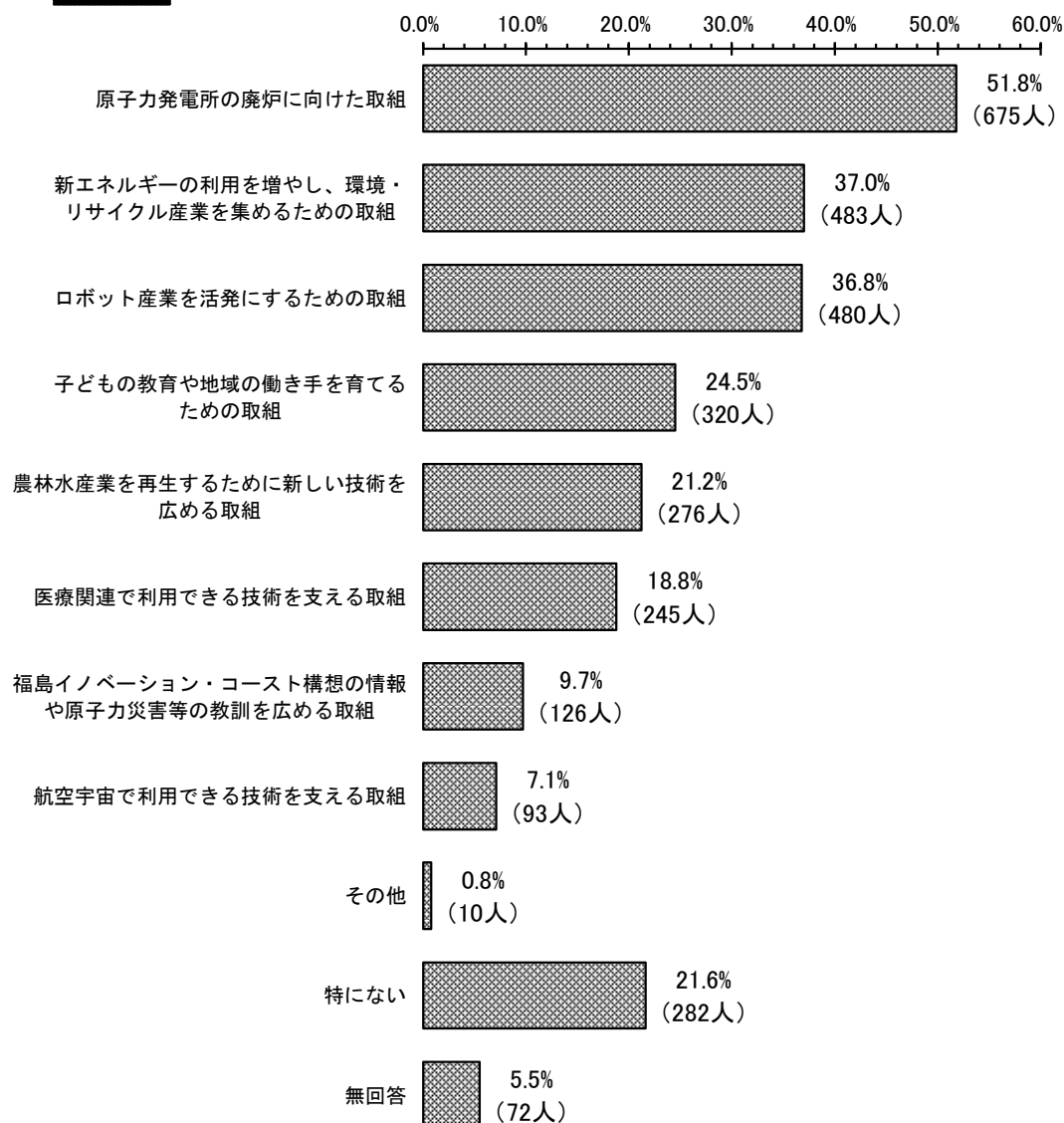
4. 福島イノベーション・コースト構想について

(1) 福島イノベーション・コースト構想※について知っている取組

問7 福島イノベーション・コースト構想について、あなたはどのような取組を知っていますか。

あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。

全体
(n=1304)



福島イノベーション・コースト構想について知っている取組は、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(51.8%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(37.0%)、「ロボット産業を活発にするための取組」(36.8%)が4割弱などとなっている。

※【参考】福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想とは

福島イノベーション・コースト構想（福島・国際研究産業都市構想）とは、東日本大震災と原子力災害によって大きな被害を受けた浜通り地域等の産業を回復するため、この地域を新たな産業が次々と生まれる場所にすることを旨とする。

構想を実現するために、以下の分野を中心に取り組んでいます。

・原子力発電所の廃炉に向けた取組

廃炉国際共同研究センター（富岡町）での研究開発、地元企業を廃炉産業へ参入しやすくするための取組など

・ロボット産業を活発にするための取組

福島ロボットテストフィールド（南相馬市）を活用したロボット・ドローン等の実証実験など

・新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組

福島水素エネルギー研究フィールド（浪江町）での研究開発など

・農林水産業を再生するために新しい技術を広める取組

自動運転トラクター、ドローンによる農薬散布など

・医療関連で利用できる技術を支える取組

健康状態の分析・確認ができる衣類の開発など

・航空宇宙で利用できる技術を支える取組

空飛ぶクルマの開発など

・子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組

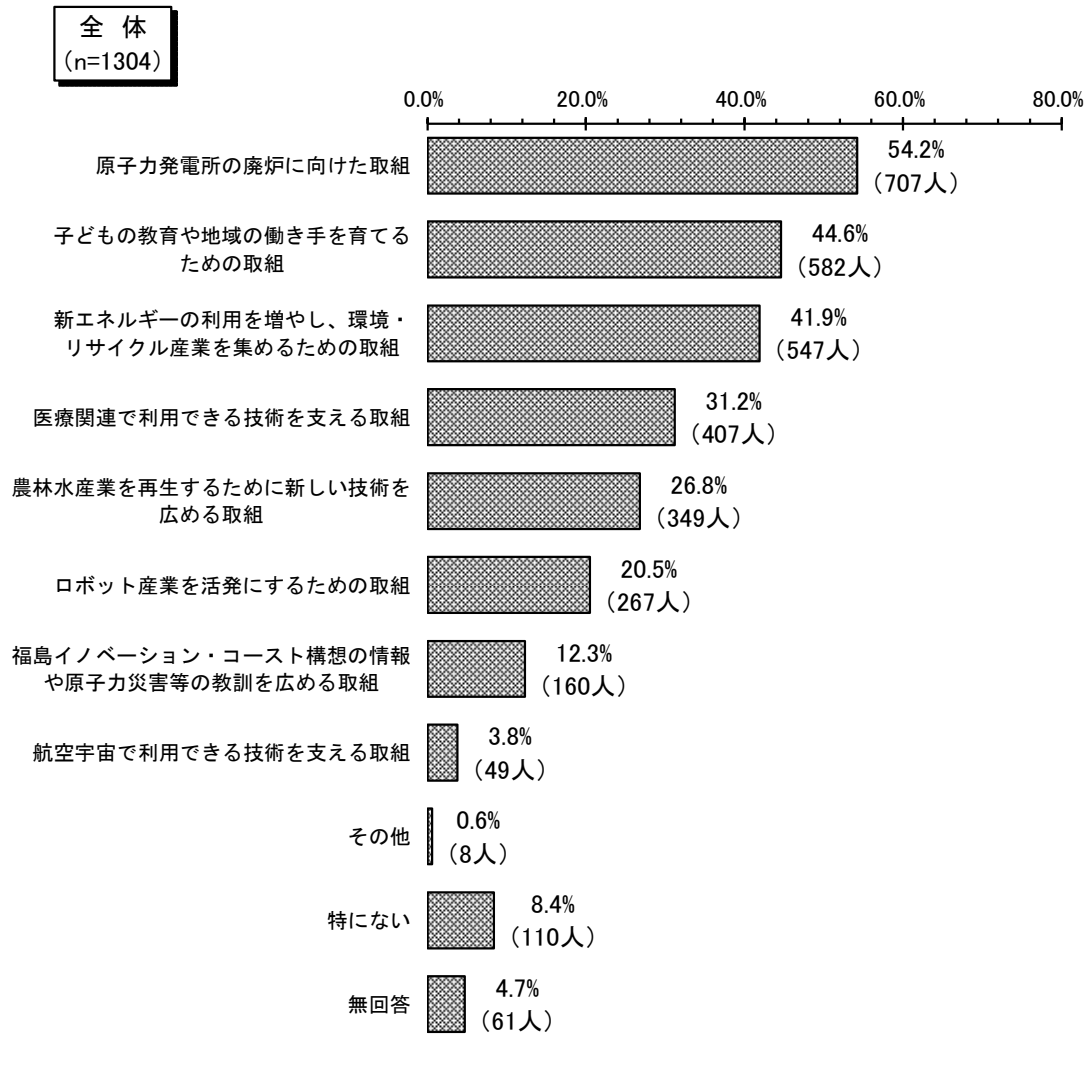
ふたば未来学園中学校・高等学校（広野町）での教育活動、大学や地元企業等の力を借りた特色ある教育プログラムなど

・福島イノベーション・コースト構想の情報や原子力災害等の教訓を広める取組

スタンプラリーやインターネット（ホームページ、フェイスブックなど）での情報発信、東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）など

(2) 福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組

問8 今後、福島イノベーション・コースト構想を進めていくために、
県はどのような分野の取組を強化していけばよいと考えますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

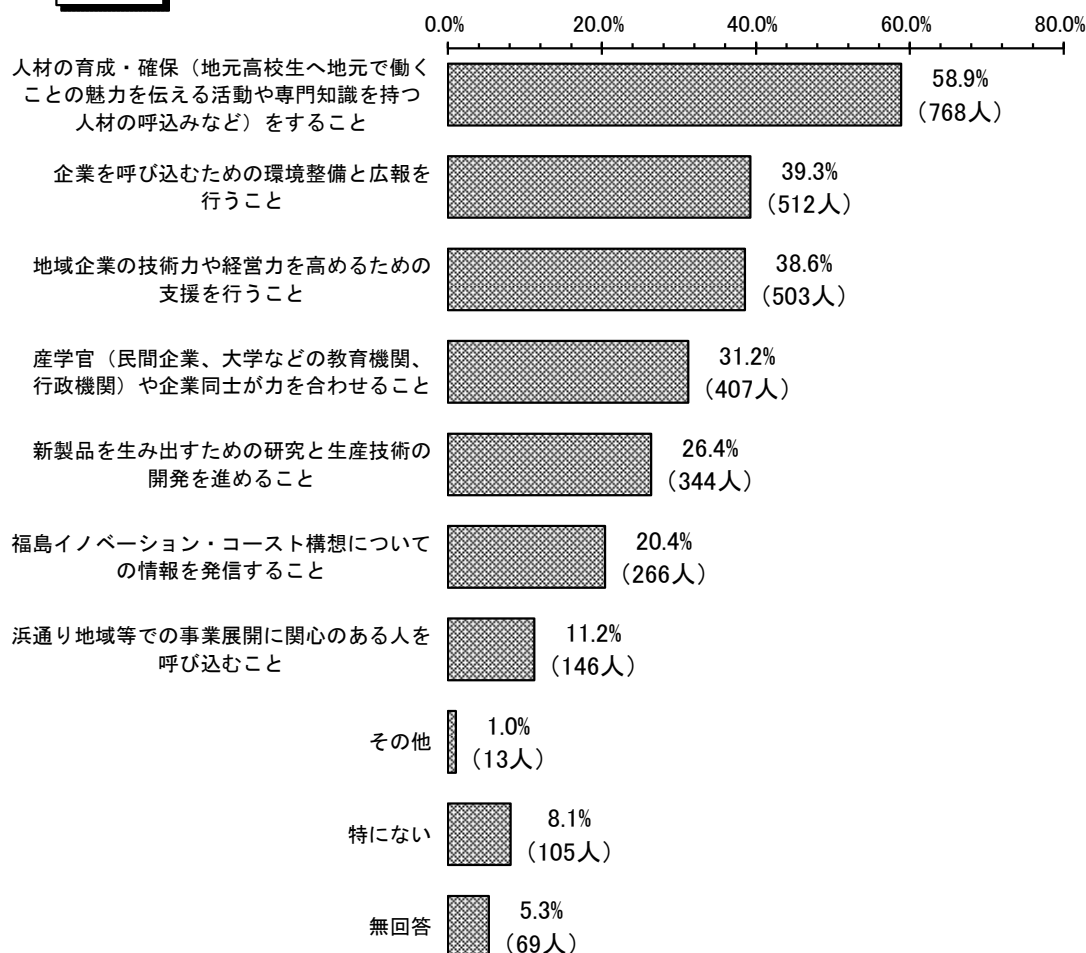


福島イノベーション・コースト構想を推進するため、県に強化してほしい取組については、「原子力発電所の廃炉に向けた取組」(54.2%)が最も多く、過半数を占めている。以下、「子どもの教育や地域の働き手を育てるための取組」(44.6%)と「新エネルギーの利用を増やし、環境・リサイクル産業を集めるための取組」(41.9%)が4割台、「医療関連で利用できる技術を支える取組」(31.2%)が約3割となっている。

(3) 福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策

問9 今後、これらの取組をさらに進めるとともに、その効果がより地域の皆さんに届くようにするためには、どのような施策がよいと考えますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=1304)

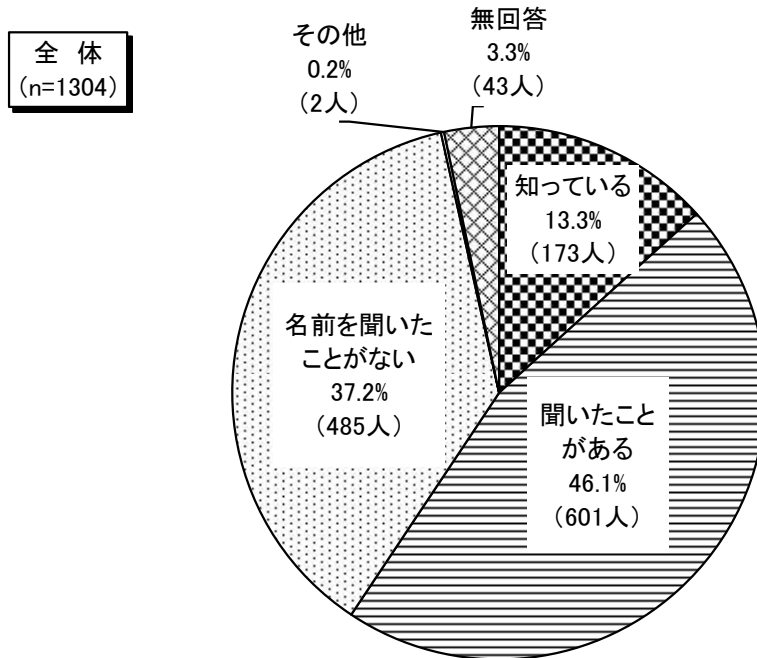


福島イノベーション・コースト構想の効果をもたらすための施策については、「人材の育成・確保（地元高校生へ地元で働くことの魅力を伝える活動や専門知識を持つ人材の呼び込みなど）をすること」（58.9%）が最も多く、約6割となっている。以下、「企業を呼び込むための環境整備と広報を行うこと」（39.3%）、「地域企業の技術力や経営力を高めるための支援を行うこと」（38.6%）が約4割、「産学官（民間企業、大学などの教育機関、行政機関）や企業同士が力を合わせることを」（31.2%）が約3割などとなっている。

5. チャレンジふくしま県民運動について

(1) チャレンジふくしま県民運動の認知状況

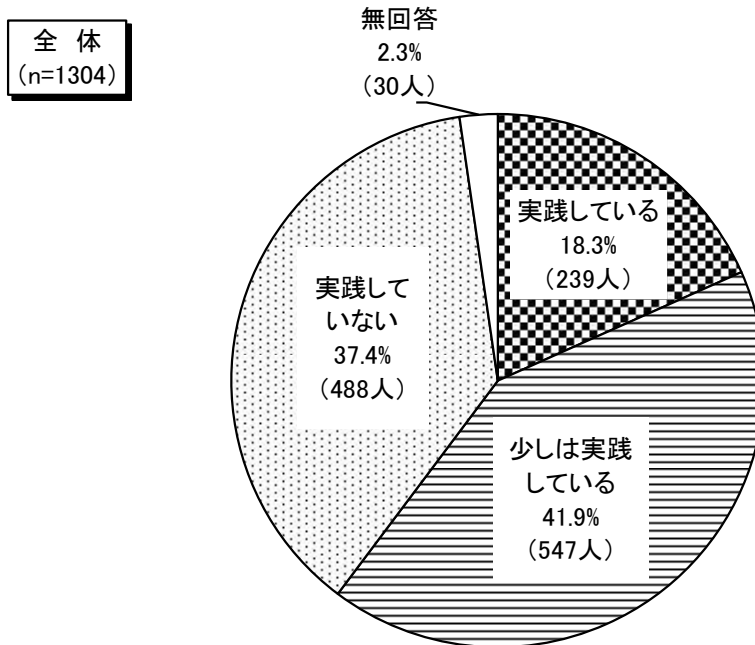
問10 「健康」をテーマとしたチャレンジふくしま県民運動について、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



チャレンジふくしま県民運動の認知状況については、「聞いたことがある」(46.1%)が最も多く、半数弱を占めている。次いで、「名前を聞いたことがない」(37.2%)が4割弱、「知っている」(13.3%)が1割強で続いている。

(2) 心身の健康づくりの実践状況

問11 例えば、減塩、ウォーキング（ウォークビズ※含む）など軽い運動、サークル活動のような心身の健康づくりを最近行っていますか。
最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



※【参考】ウォークビズとは

健康づくりのため、歩きやすい靴や服装で通勤・勤務すること。

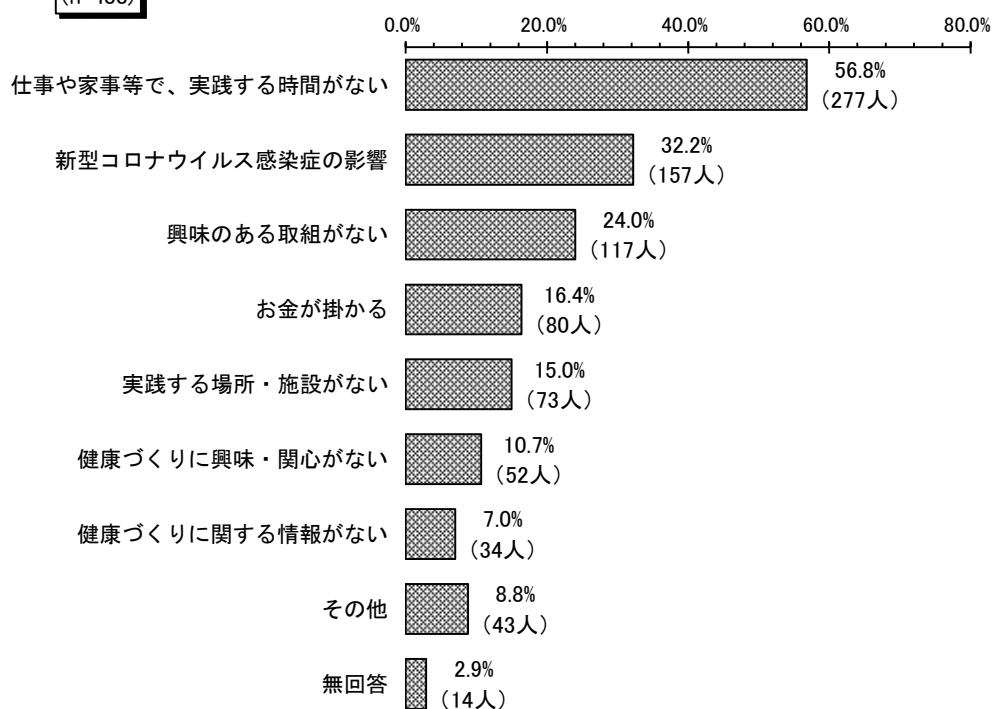
心身の健康づくりの実践状況については、「少しは実践している」（41.9％）が最も多く、約4割を占めている。次いで、「実践していない」（37.4％）が4割弱、「実践している」（18.3％）が約2割で続いている。

(3) 心身の健康づくりを実践していない理由

(問11で「3 実践していない」と回答した方にお尋ねします。)

問12 健康づくりを実践していない理由について、
あてはまるものにいくつでも○を付けてください。

全体
(n=488)

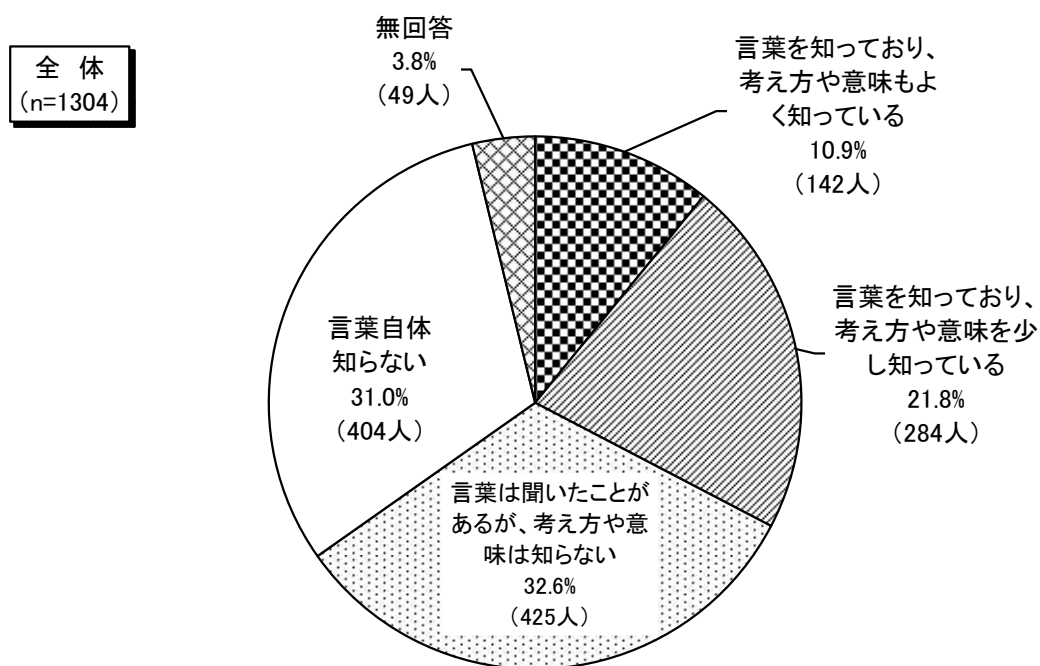


心身の健康づくりを実践していない理由は、「仕事や家事等で、実践する時間がない」(56.8%)が最も多く、6割弱となっている。以下、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響」(32.2%)が3割強、「興味のある取組がない」(24.0%)が2割強などとなっている。

6. ユニバーサルデザインについて

(1) 言葉の認知状況

問 13 あなたは、ユニバーサルデザインという言葉について知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

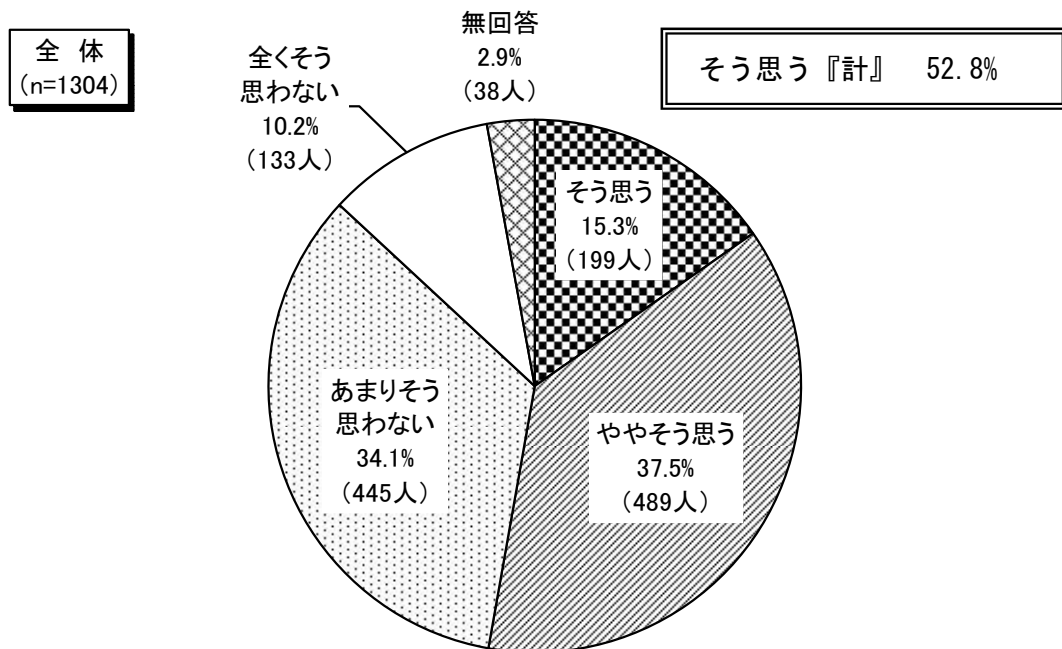


ユニバーサルデザインという言葉について、「言葉は聞いたことがあるが、考え方や意味は知らない」(32.6%)の割合が最も多く、3割強となっている。以下、「言葉自体知らない」(31.0%)、「言葉を知っており、考え方や意味を少し知っている」(21.8%)、「言葉を知っており、考え方や意味もよく知っている」(10.9%)となっている。

(2) 製品や施設等に関するユニバーサルデザインについて

問 14 あなたは、日常で使う製品、身近な施設（官公署・公共施設・病院・スーパーマーケット・駅舎・歩道など）、バスなどの乗り物について、10年前と比べて、誰もが使いやすくなっていると感じますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



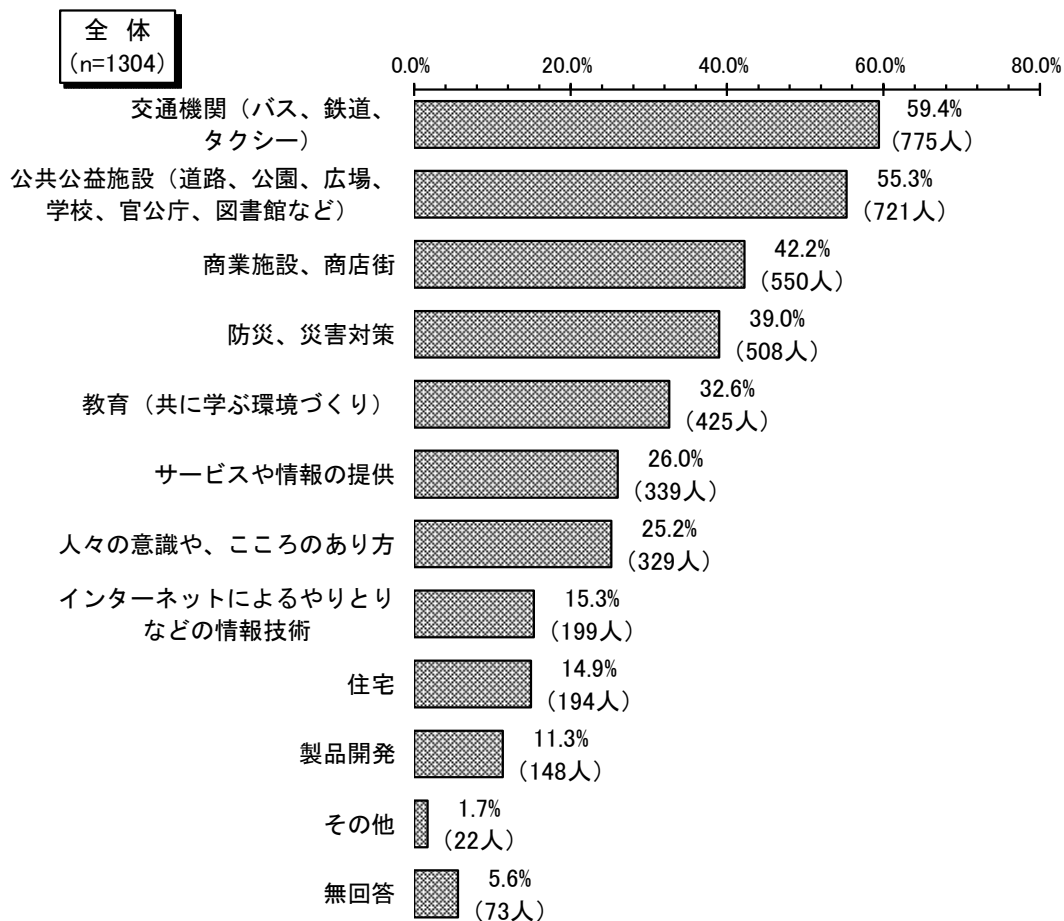
多くの人が利用する製品、施設やバスなどの乗り物について誰もが使いやすくなっていると感じるか、「そう思う」(15.3%)と「ややそう思う」(37.5%)を合わせた『そう思う』計(52.8%)の割合は、過半数を占めている。

一方、「全くそう思わない」(10.2%)と「あまりそう思わない」(34.1%)を合わせた『そう思わない』計(44.3%)の割合は、4割強を占めている。

(3) 導入が必要なもの

問15 あなたが、県内で、ユニバーサルデザインの考え方を導入することが必要だと考えるのはどれですか。

あてはまるものにもいくつか○をつけてください。



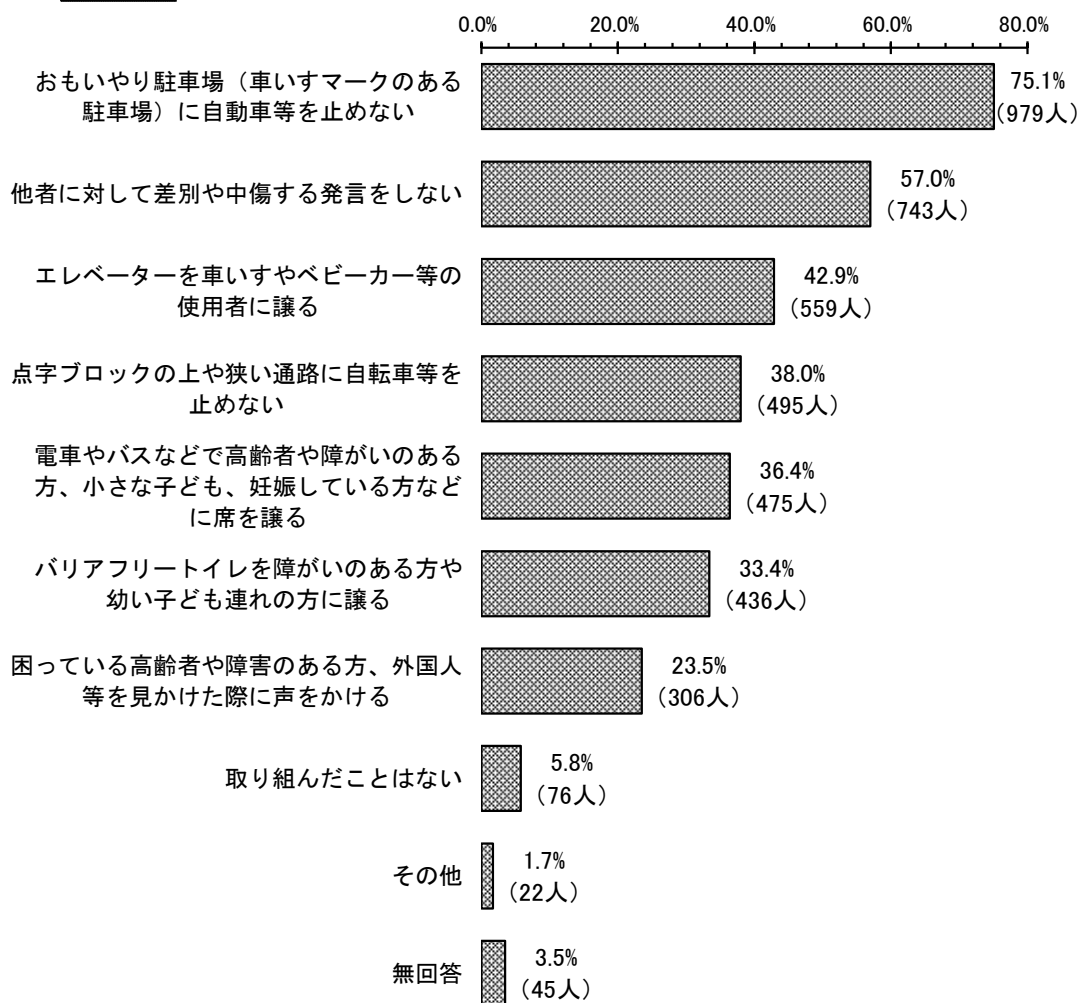
ユニバーサルデザインの考え方の導入が必要なものとしては、「交通機関 (バス、鉄道、タクシー)」(59.4%) の割合が最も多く、約6割となっている。以下、「公共公益施設 (道路、公園、広場、学校、官公庁、図書館など)」(55.3%) が5割台、「商業施設、商店街」(42.2%) が4割台、「防災、災害対策」(39.0%)、「教育 (共に学ぶ環境づくり)」(32.6%) が3割台、「サービスや情報の提供」(26.0%)、「人々の意識や、こころのあり方」(25.2%) が2割台となっている。

(4) 取り組んだ経験

問 16 あなたは、過去1年間に高齢者や障がいのある方、妊娠している方、幼い子どもを連れての方、外国の方等に対して、次のような気配りに取り組んだことがありますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体
(n=1304)



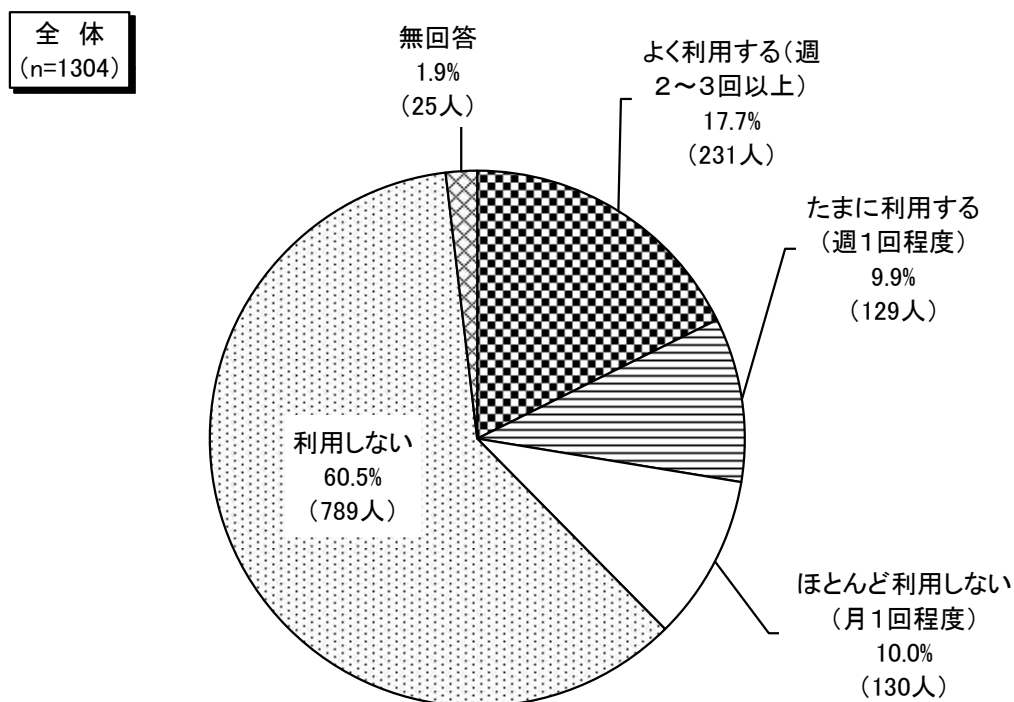
取り組んだ経験の回答としては、「おもいやり駐車場（車いすマークのある駐車場）に自動車等を止めない」（75.1%）の割合が最も多く、8割弱となっている。以下、「他者に対して差別や中傷する発言をしない」（57.0%）が5割台、「エレベーターを車いすやベビーカー等の使用者に譲る」（42.9%）が4割台、「点字ブロックの上や狭い通路に自転車等を止めない」（38.0%）、「電車やバスなどで高齢者や障がいのある方、小さな子ども、妊娠している方などに席を譲る」（36.4%）、「バリアフリートイレを障がいのある方や幼い子ども連れの方に譲る」（33.4%）が3割台となっている。

一方、「取り組んだことはない」（5.8%）の割合は、1割未満となっている。

7. 自転車の安全利用について

(1) 自転車の利用頻度

問17 あなた（もしくは家族）は普段、自転車を利用しますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

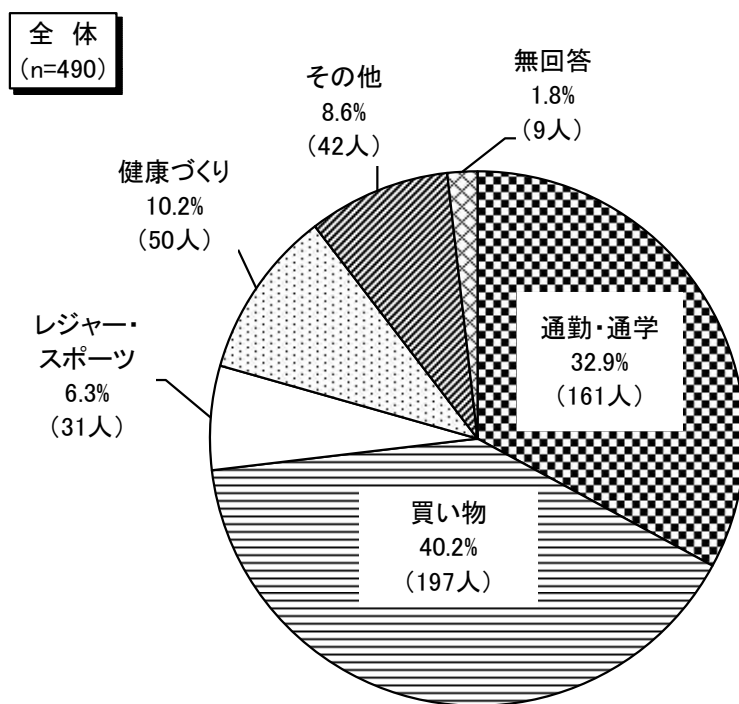


自転車の利用頻度は「よく利用する（週2～3回以上）」（17.7%）の割合が最も多く、2割弱となっている。以下、「ほとんど利用しない（月1回程度）」（10.0%）、「たまたま利用する（週1回程度）」（9.9%）が約1割となっている。

一方、「利用しない」（60.5%）の割合は、約6割となっている。

(2) 一番の利用目的

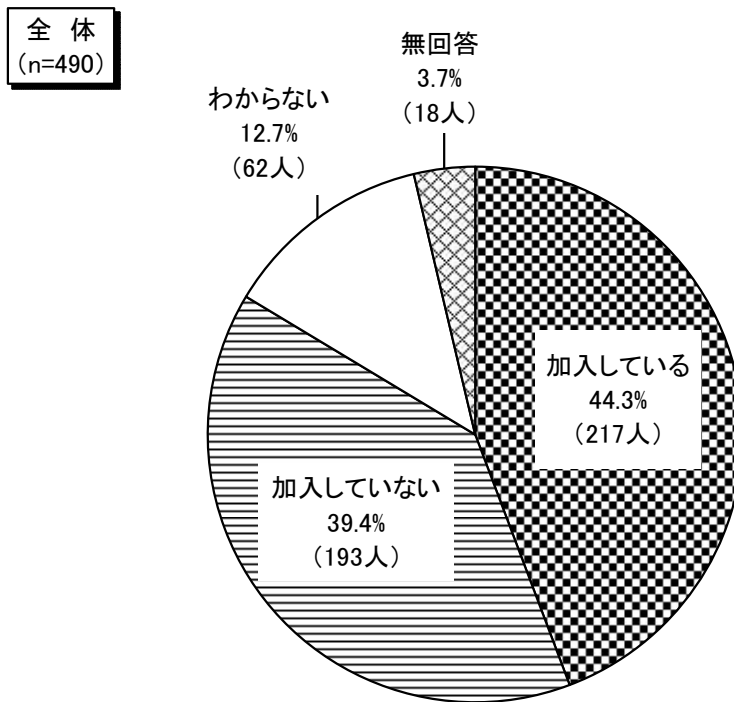
問18 (問17で「1 よく利用する(週2~3回以上)」「2 たまに利用する(週1回程度)」「3 ほとんど利用しない(月1回程度)」と回答した方にお尋ねします。)主にどのような目的で自転車を利用しますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



一番の利用目的は「買い物」(40.2%)が最も多く、約4割となっている。次いで、「通勤・通学」(32.9%)が3割強、「健康づくり」(10.2%)が約1割で続いている。

(3) 自転車損害賠償保険の加入状況

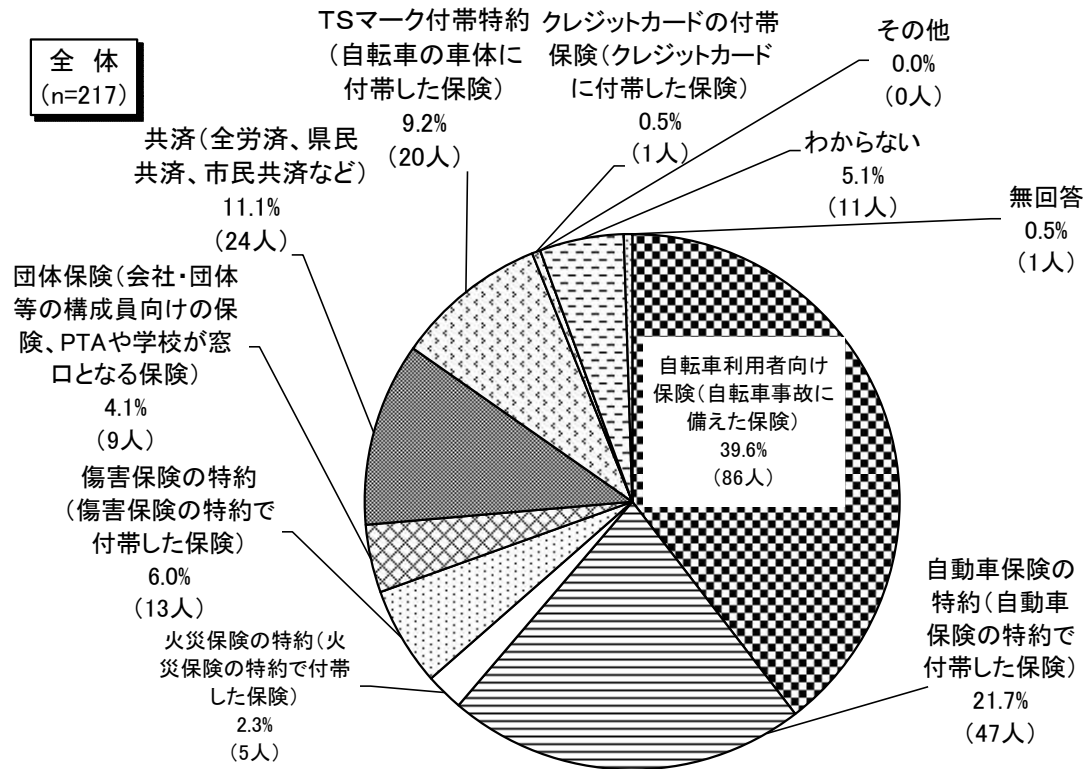
問19 (問17で「1 よく利用する(週2~3回以上)」「2 たまに利用する(週1回程度)」「3 ほとんど利用しない(月1回程度)」と回答した方にお尋ねします。) あなたは、自転車損害賠償保険に加入していますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



自転車損害賠償保険の加入状況は「加入している」(44.3%)が最も多く、4割強となっている。次いで、「加入していない」(39.4%)が約4割で拮抗している。

(4) 加入している自転車損害賠償保険の種類

問 20 (問 19で「1 加入している」と回答した方にお尋ねします。)
 加入している自転車損害賠償保険の種類を教えてください。
 あてはまるもの1つに○をつけてください。

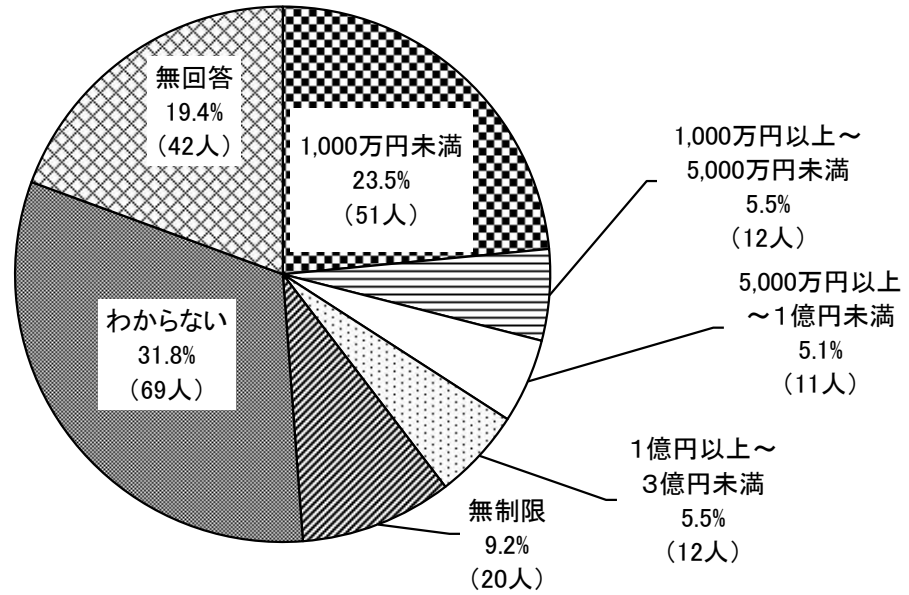


加入している自転車損害賠償保険の種類は「自転車利用者向け保険(自転車事故に備えた保険)」(39.6%)が最も多く、約4割となっている。次いで、「自動車保険の特約(自動車保険の特約で付帯した保険)」(21.7%)が約2割、「共済(全労済、県民共済、市民共済など)」(11.1%)、「TSマーク付帯特約(自転車の車体に付帯した保険)」(9.2%)が約1割で続いている。

(5) 加入している自転車損害賠償保険の補償額

問 21 (問 19 で「1 加入している」と回答した方にお尋ねします。)
加入している自転車損害賠償保険の補償額を教えてください。
あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

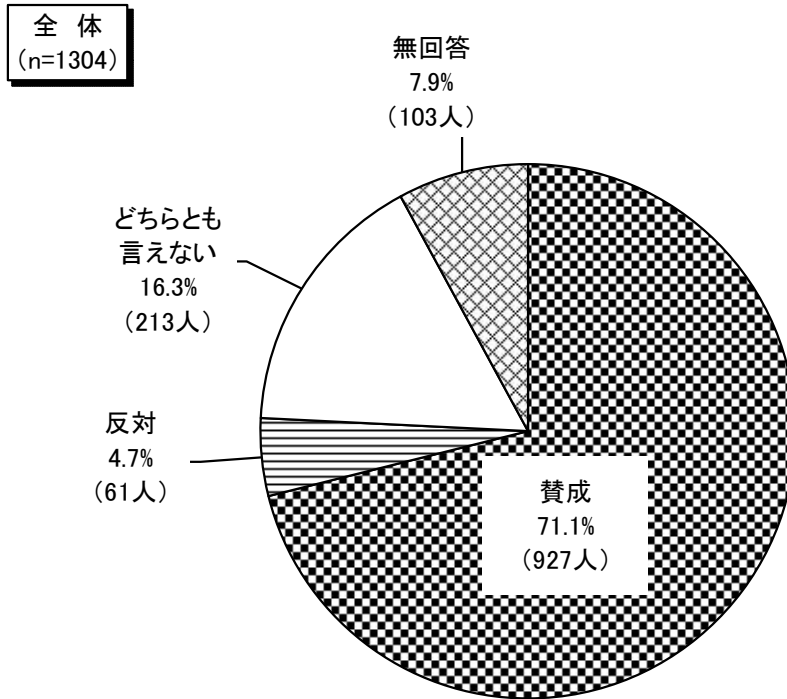
全体
(n=217)



加入している自転車損害賠償保険の補償額は「1,000万円未満」(23.5%)が最も多く、2割強となっている。次いで、「無制限」(9.2%)が約1割、「1,000万円以上～5,000万円未満」(5.5%)、「1億円以上～3億円未満」(5.5%)、「5,000万円以上～1億円未満」(5.1%)が1割未満で続いている。

(6) 自転車損害賠償保険の加入義務化について

問 22 自転車損害賠償保険の加入を条例で義務化することについてどう思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



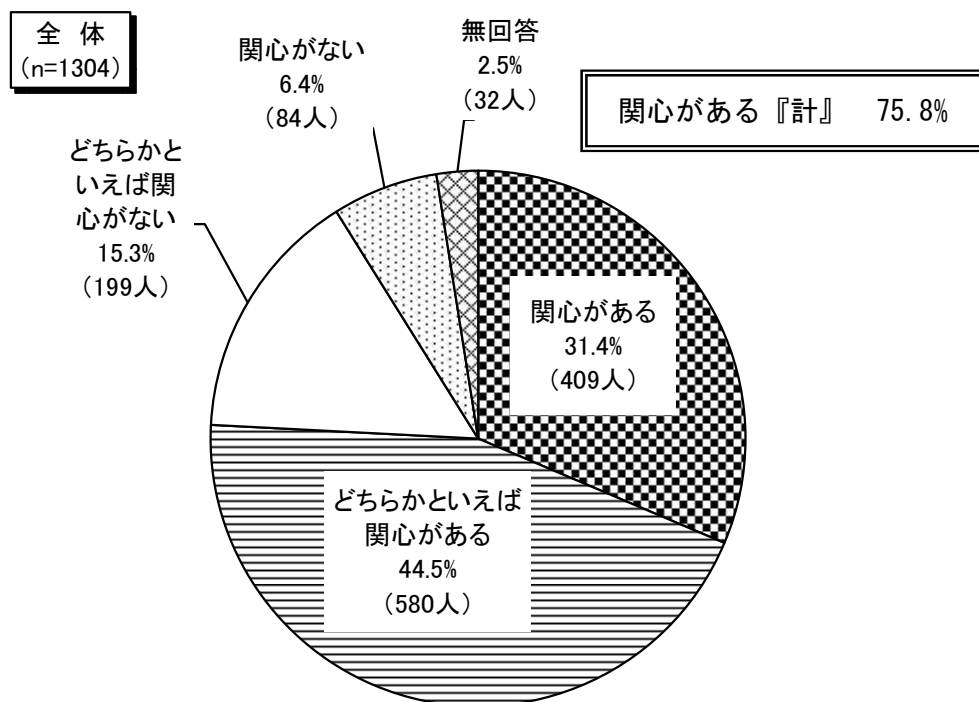
自転車損害賠償保険の加入状況は「賛成」(71.1%)が最も多く、約7割となっている。

一方、「反対」(4.7%)の割合は、1割未満となっている。

8. 食育について

(1) 食育※の関心度

問 24 あなたは、「食育」に関心がありますか、それとも関心がありませんか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



食育の関心度について「関心がある」(31.4%)と「どちらかといえば関心がある」(44.5%)を合わせた『関心がある』計(75.9%)の割合は、7割強を占めている。

一方、「関心がない」(6.4%)と「どちらかといえば関心がない」(15.3%)を合わせた『関心がない』計(21.7%)の割合は、約2割にとどまっている。

※【参考】食育とは

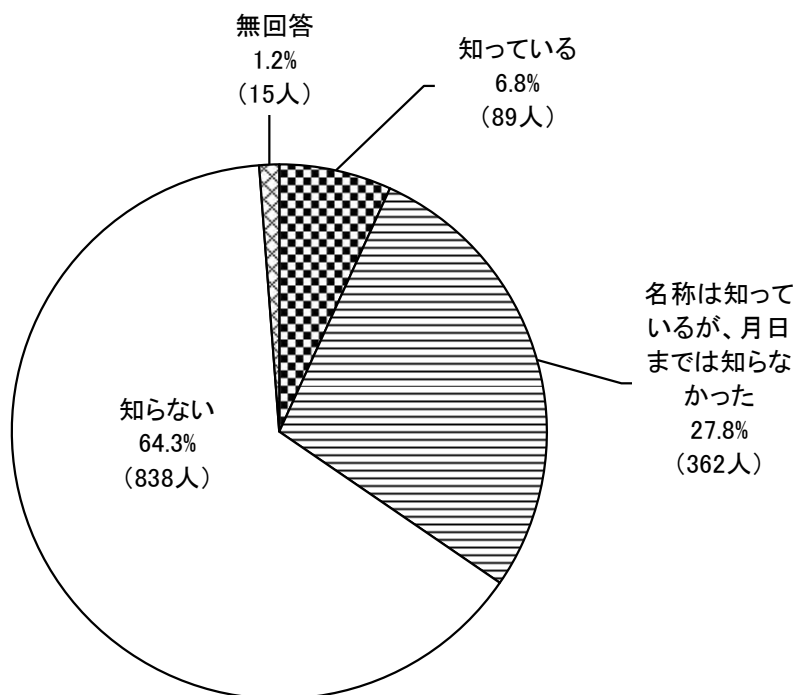
食育(しょくいく)とは、2005年に成立した食育基本法においては、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置づけられており、様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

(2) 「食育月間」と「食育の日」の認知状況

問 25 あなたは、「毎年6月は『食育月間』、毎月19日は『食育の日』」であることを知っていますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

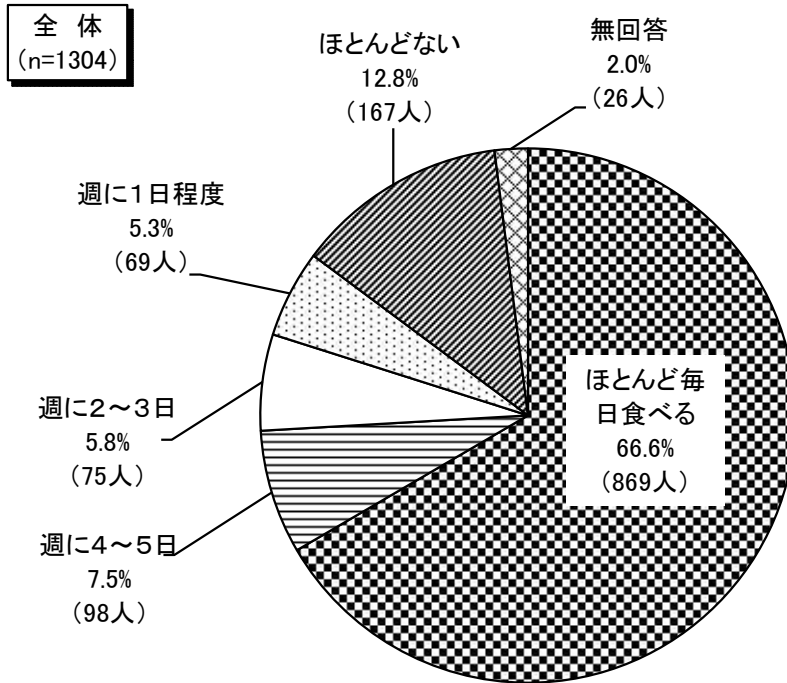
全体
(n=1304)



「毎年6月は『食育月間』、毎月19日は『食育の日』」は「知らない」(64.3%)の割合が最も多く、6割強となっている。以下、「名称は知っているが、月日までは知らなかった」(27.8%)、「知っている」(6.8%)となっている。

(3) 共食の頻度

問 26 朝食又は夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



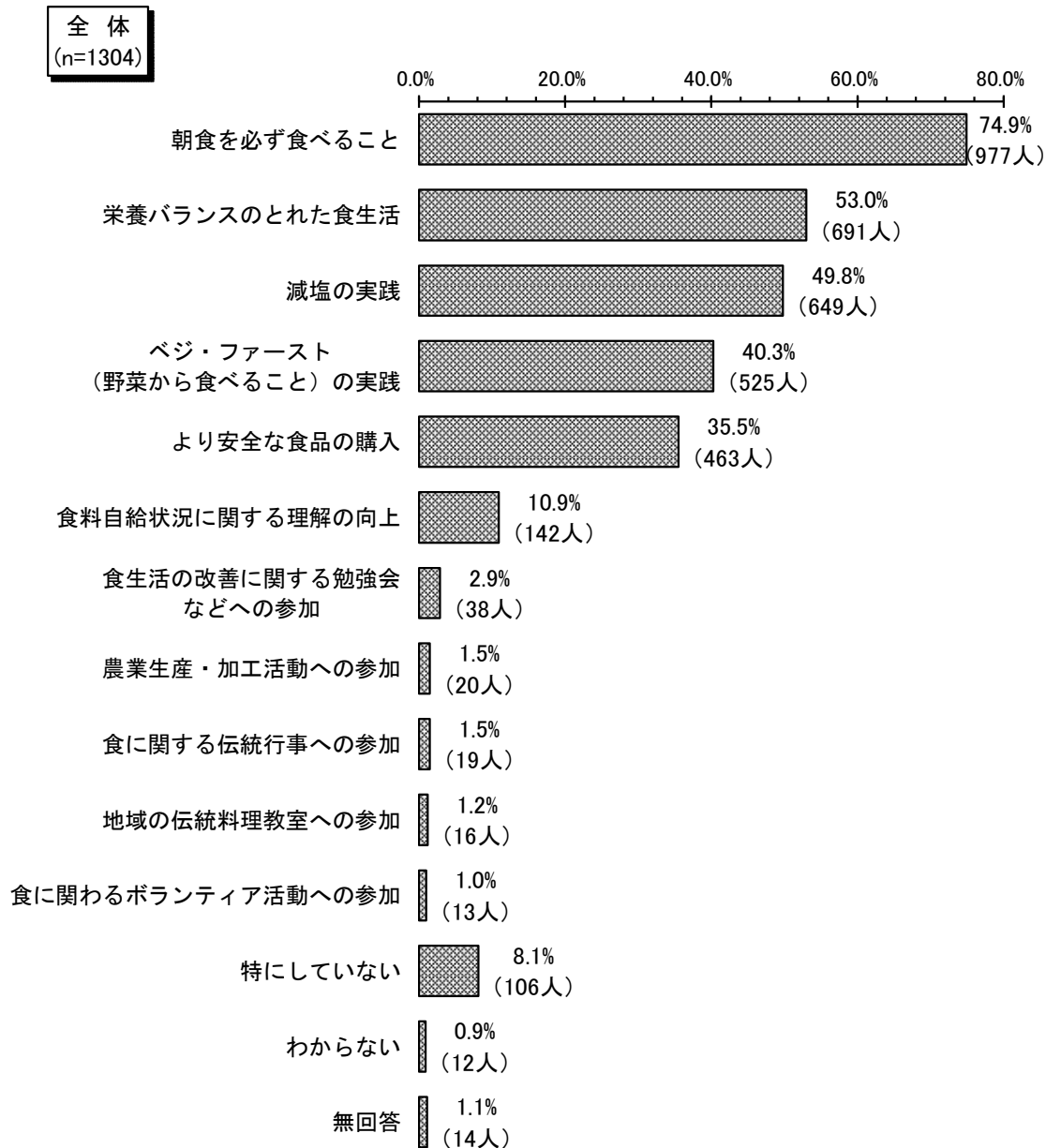
共食の頻度は「ほぼ毎日食べる」(66.6%)が最も多く、6割強となっている。以下、「週に4~5回」(7.5%)、「週に2~3回」(5.8%)、「週に1日程度」(5.3%)となっている。

また、「ほとんどない」(12.8%)の割合は、1割強となっている。

(4) 食育に関して実践していること

問 27 あなたは、日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する活動や行動を実践していますか。

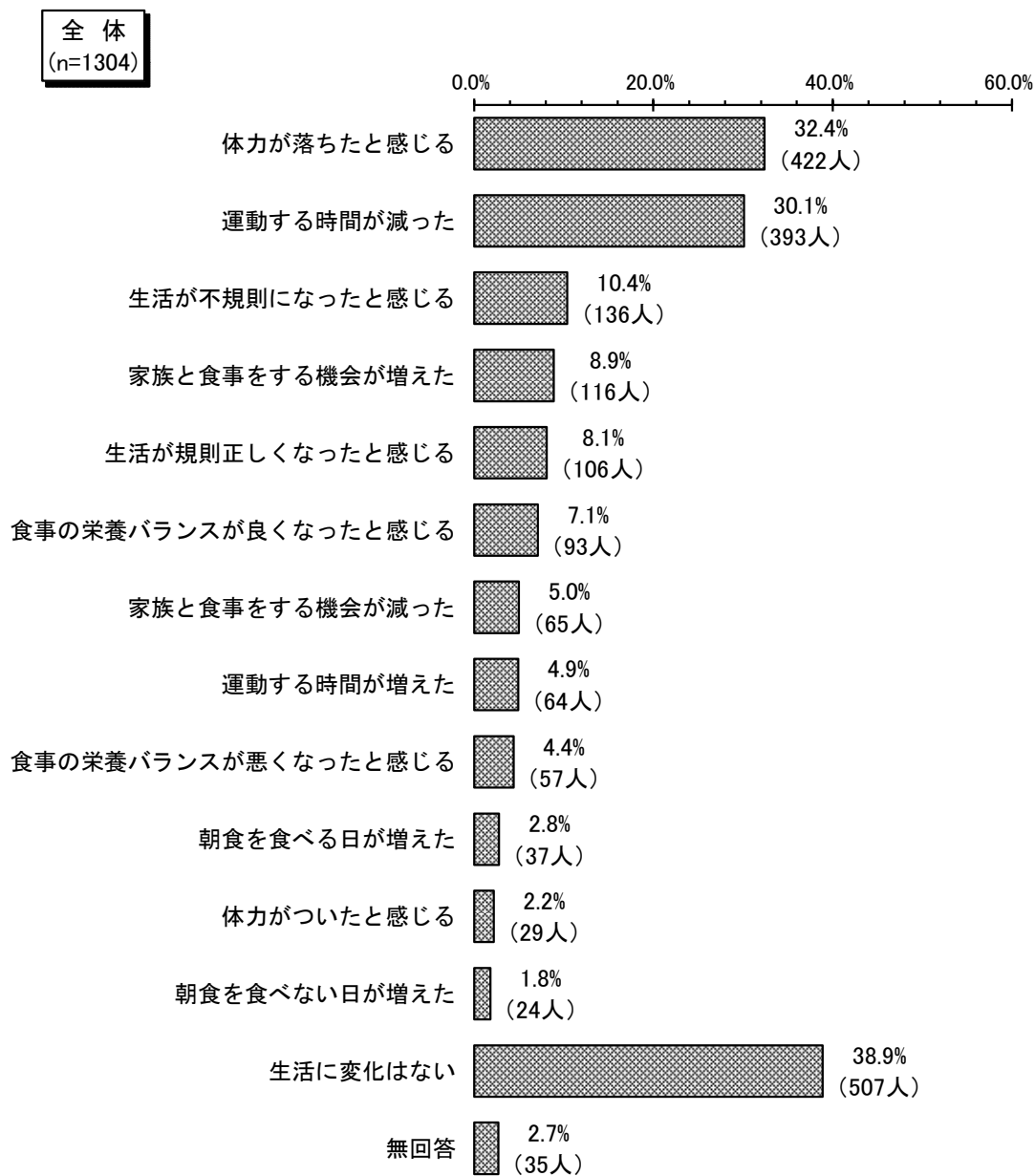
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



食育に関して実践していることは、「朝食を必ず食べること」(74.9%)が最も多く、7割強を占めている。以下、「栄養バランスのとれた食生活」(53.0%)が過半数、「減塩の実践」(49.8%)が約半数、「ベジ・ファースト(野菜から食べること)の実践」(40.3%)が約4割、「より安全な食品の購入」(35.5%)が4割弱などとなっている。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活の変化

問 28 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大の前後で、生活に変化がありましたか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。



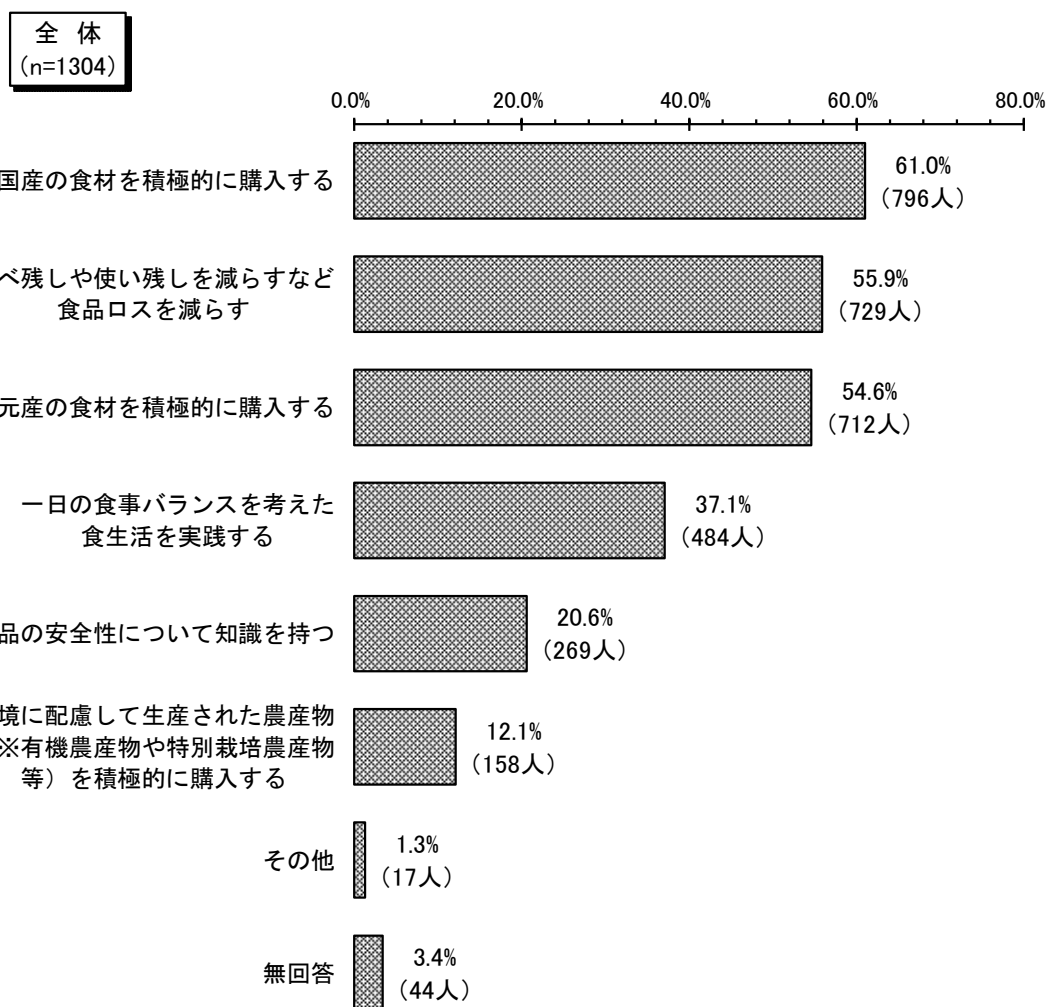
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活の変化は、「体力が落ちたと感じる」(32.4%)が最も多く、3割強を占めている。以下、「運動する時間が減った」(30.1%)が約3割、「生活が不規則になったと感じる」(10.4%)、「家族と食事をする機会が増えた」(8.9%)、「生活が規則正しくなったと感じる」(8.1%)が1割前後などとなっている。

一方、「生活に変化はない」(38.9%)の割合は、約4割となっている。

9. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践していること

問 29 普段、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。
あてはまるものに3つまで○をつけて下さい。



農林水産物の購入や食生活で実践していることは、「国産の食材を積極的に購入する」(61.0%) が最も多く、約6割となっている。以下、「食べ残しや使い残しを減らすなど食品ロスを減らす」(55.9%) と「地元産の食材を積極的に購入する」(54.6%) が過半数、「一日の食事バランスを考えた食生活を実践する」(37.1%) が4割弱などとなっている。

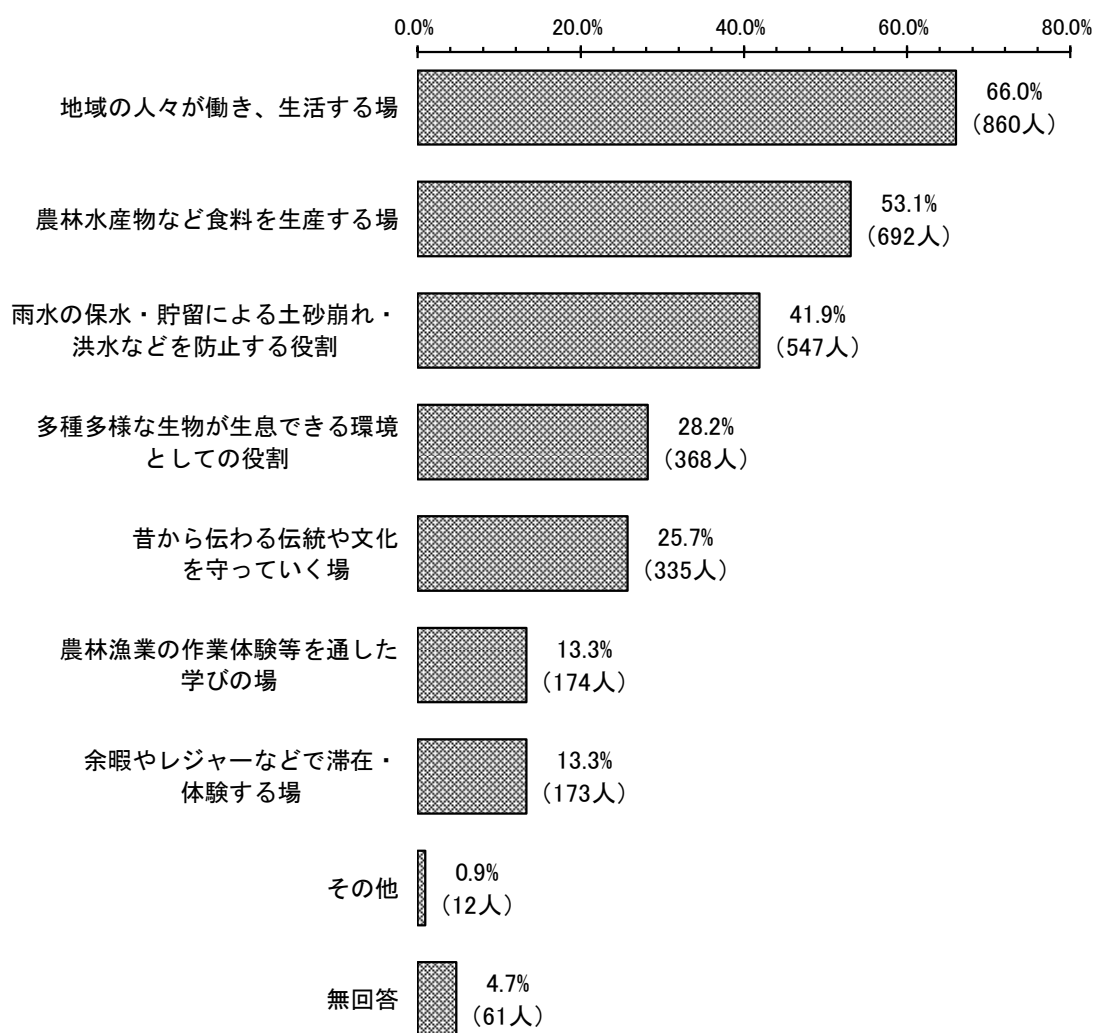
※【参考】有機農産物・特別栽培農産物とは

どちらも農業による環境への負担をできる限り低減して栽培された農産物のこと。
有機農産物は、化学的に合成された農薬や肥料を使用しないこと等により栽培されたもの、特別栽培農産物は、化学的に合成された農薬や肥料の使用量をこれまでより半分以下に減らして栽培されたもののこと。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問 30 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
あてはまるものに3つまで○をつけて下さい。

全体
(n=1304)



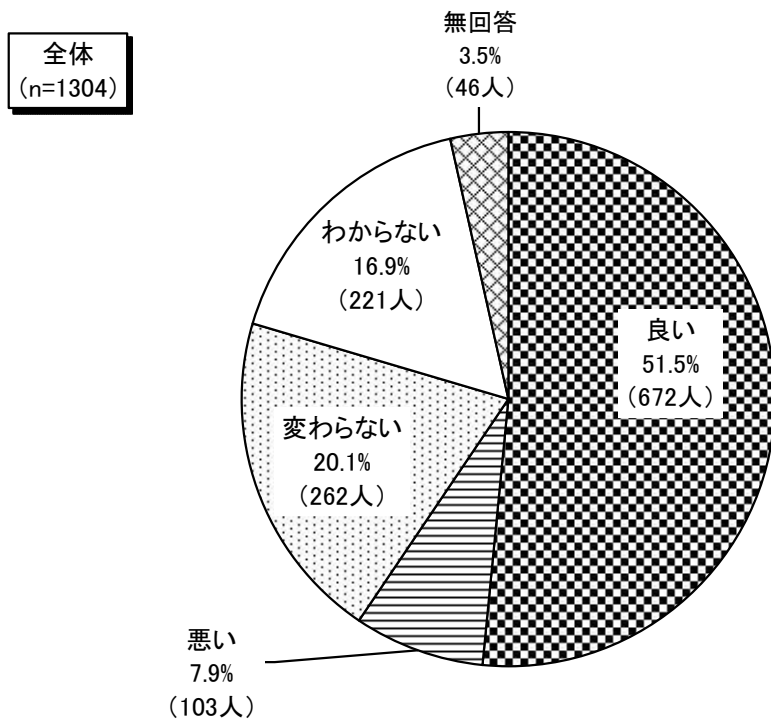
農山漁村の役割として期待することは、「地域の人々が働き、生活する場」(66.0%)が最も多く、7割弱を占めている。以下、「農林水産物など食料を生産する場」(53.1%)が過半数、「雨水の保水・貯留による土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(41.9%)が約4割、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(28.2%)が約3割などとなっている。

10. 地域社会の安全・安心（治安）について

（1）居住地の治安状況

問 31 現在あなたが住んでいる地域（仮設住宅・借り上げ住宅も含む）の治安は良いと思いますか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



現在の居住地の治安状況が「良い」（51.5%）と思う人は約半数を占めている。一方、治安状況が「悪い」（7.9%）と思う人は1割未満にとどまっている。

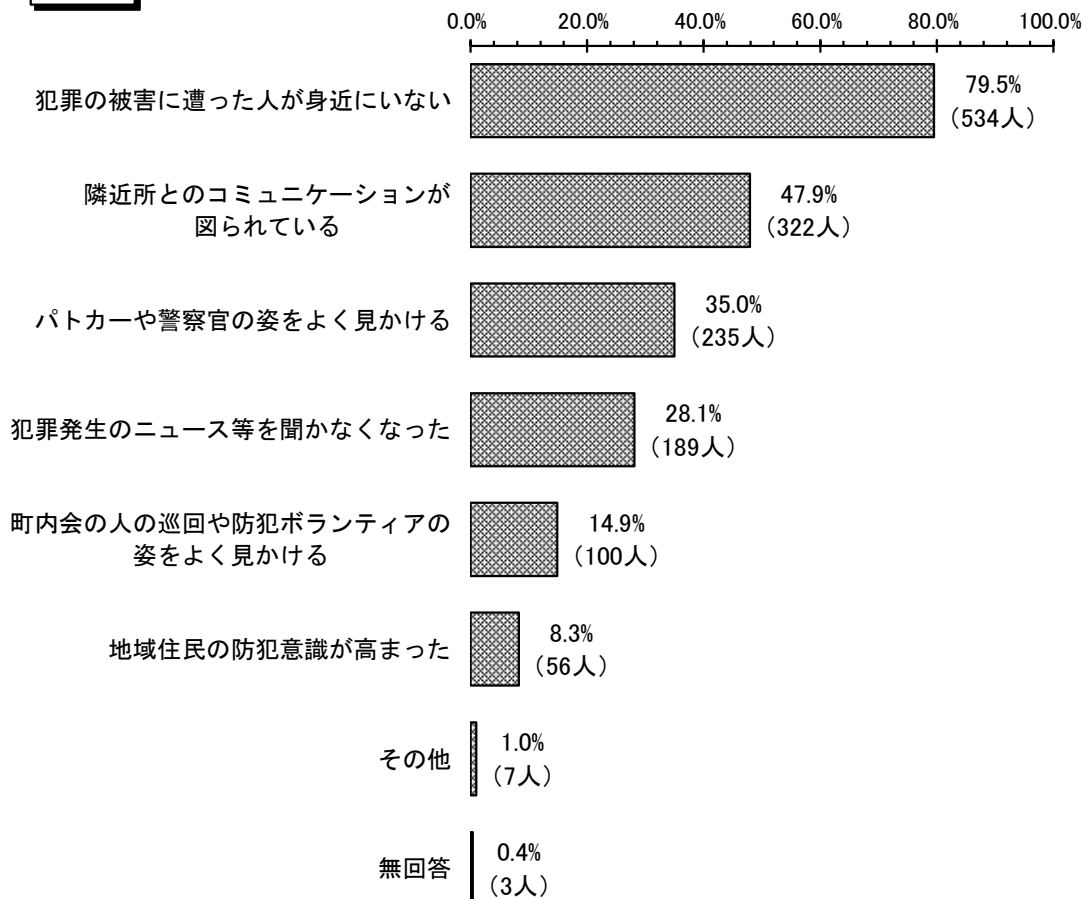
(2) 治安状況が良いと思う理由

(問31で、「1 良い」とお答えの方にお尋ねします。)

問32-1 問31で、良いと思う理由は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=672)



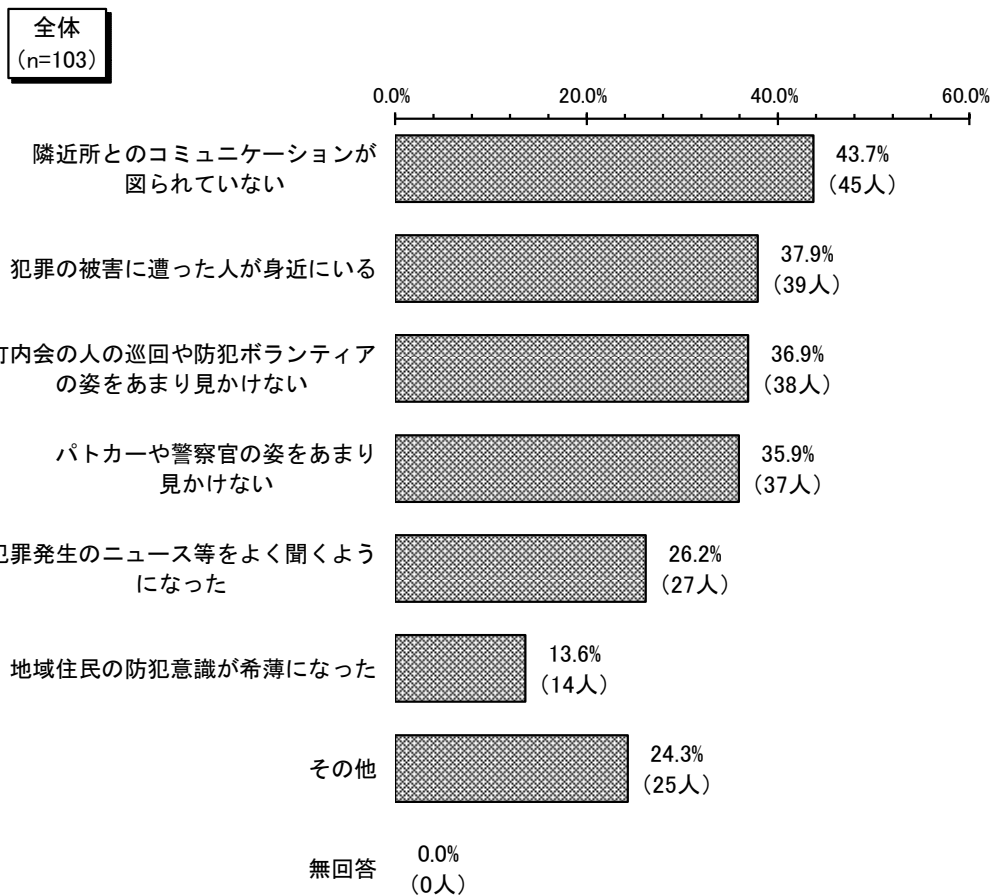
治安状況が良いと思う理由は、「犯罪の被害に遭った人が身近にいない」(79.5%)が最も多く、約8割を占めている。以下、「隣近所とのコミュニケーションが図られている」(47.9%)が半数弱、「パトカーや警察官の姿を良く見かける」(35.0%)が3割強、「犯罪発生のニュース等を聞かなくなった」(28.1%)が約3割などとなっている。

(3) 治安状況が悪いと思う理由

(問31で、「2 悪い」とお答えの方にお尋ねします。)

問32-2 問31で、悪いと思う理由は何ですか。

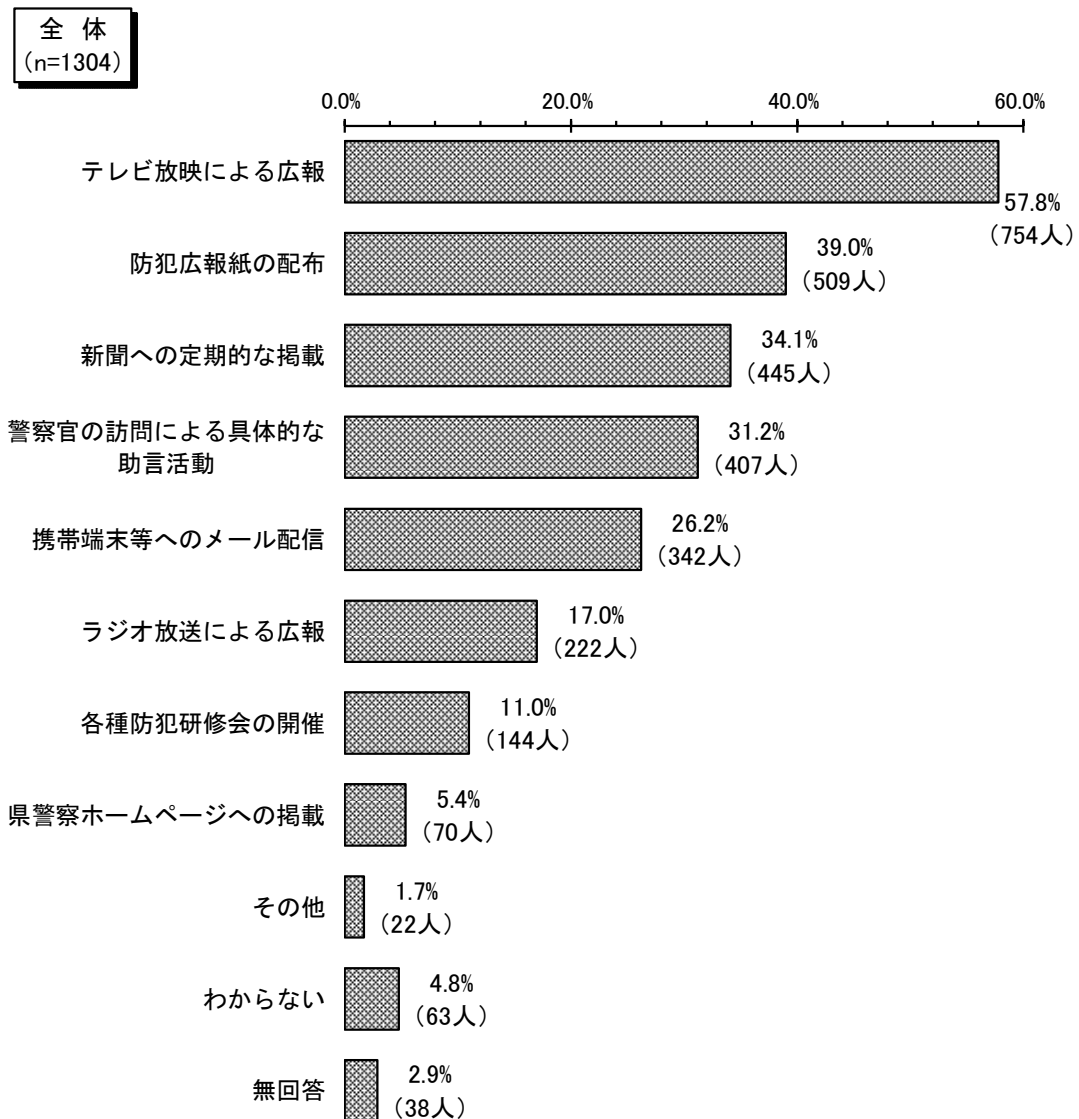
あてはまるもの3つまで○をつけてください。



治安状況が悪いと思う理由は、「隣近所とのコミュニケーションが図られていない」(43.7%)が最も高く、4割強を占めている。以下、「犯罪の被害に遭った人が身近にいる」(37.9%)、「町内会の人々の巡回や防犯ボランティアの姿をあまり見かけない」(36.9%)と「パトカーや警察官の姿をあまり見かけない」(35.9%)が3割台などとなっている。

(4) 犯罪発生状況等の情報提供方法

問 33 犯罪の発生状況や犯罪を未然に防止する方法等の情報について、
どのような形で提供されるのがよいと思いますか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

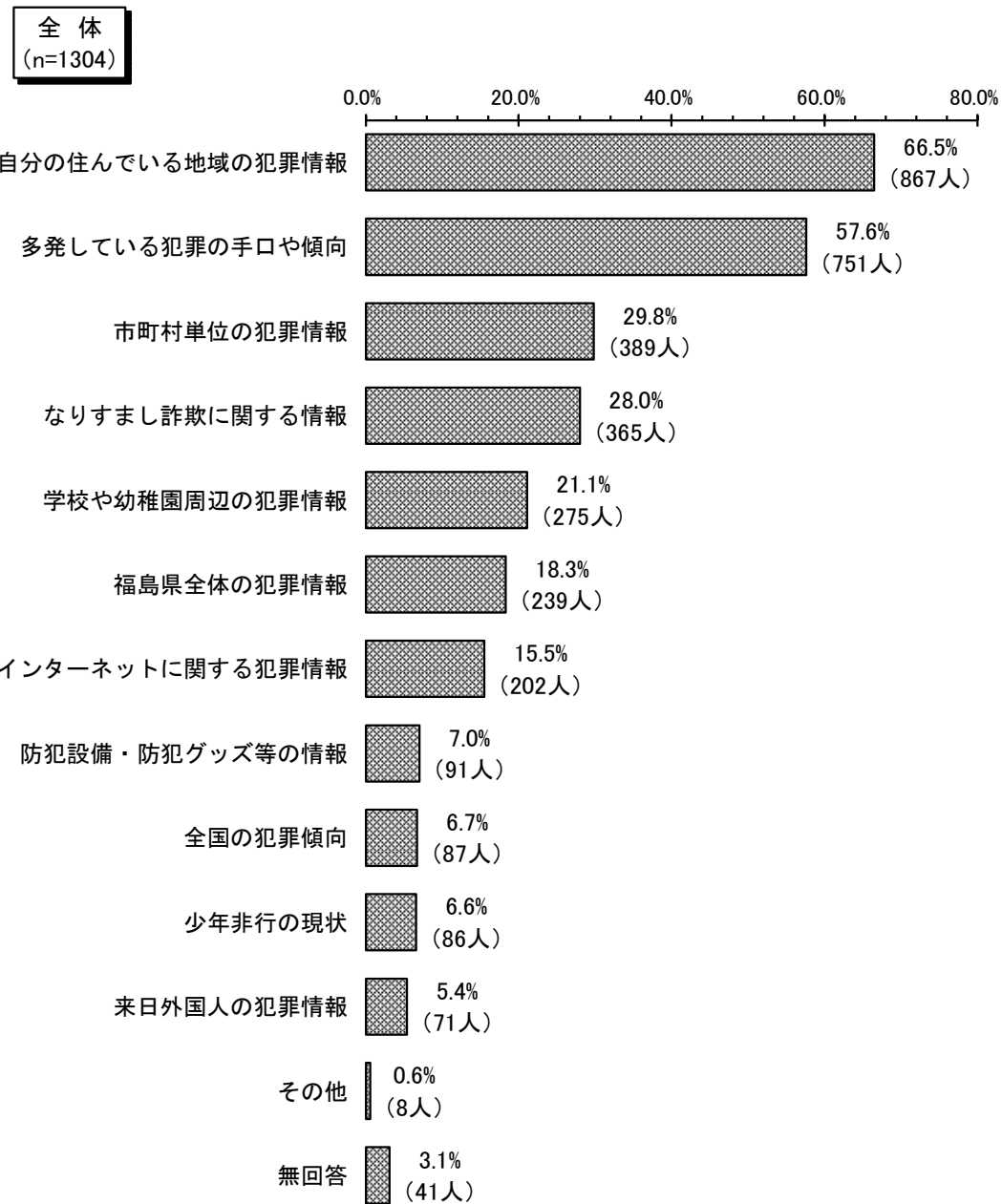


犯罪発生状況等の情報提供方法については、「テレビ放映による広報」(57.8%)が最も多く、6割弱となっている。以下、「防犯広報紙の配布」(39.0%)、「新聞への定期的な掲載」(34.1%)、「警察官の訪問による具体的な助言活動」(31.2%)が3割台などとなっている。

(5) 犯罪に関して知りたい情報

問 34 犯罪に関するどのような情報が知りたいですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

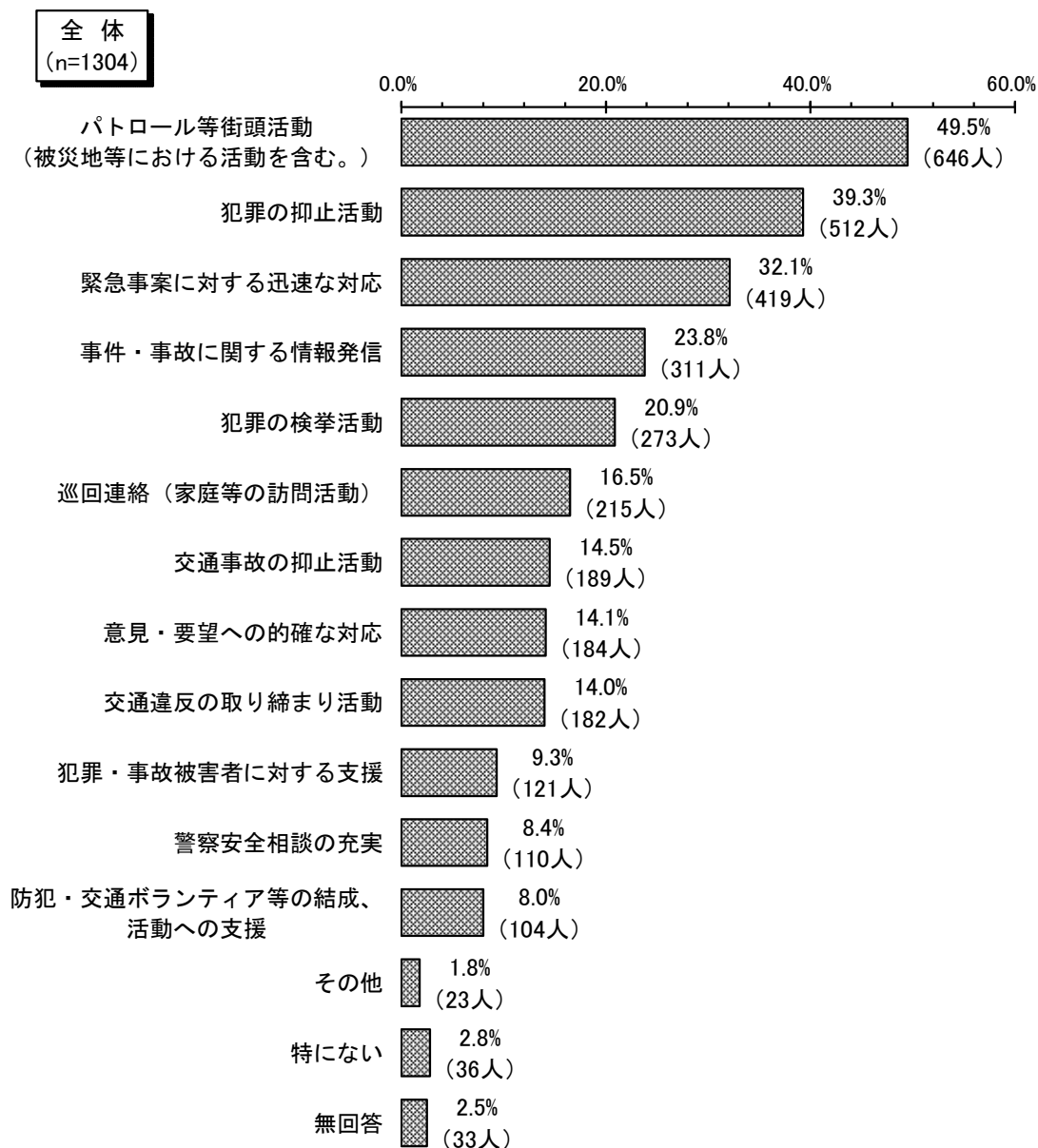


犯罪に関して知りたい情報は、「自分の住んでいる地域の犯罪情報」(66.5%)が最も多く、7割弱を占めている。次いで、「多発している犯罪の手口や傾向」(57.6%)が6割弱で続いている。以下、「市町村単位の犯罪情報」(29.8%)と「なりすまし詐欺に関する情報」(28.0%)が約3割などとなっている。

(6) 警察に強化してほしい活動

問 35 安全・安心な地域社会をつくるため、警察にどのような活動を強化してほしいと考えますか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

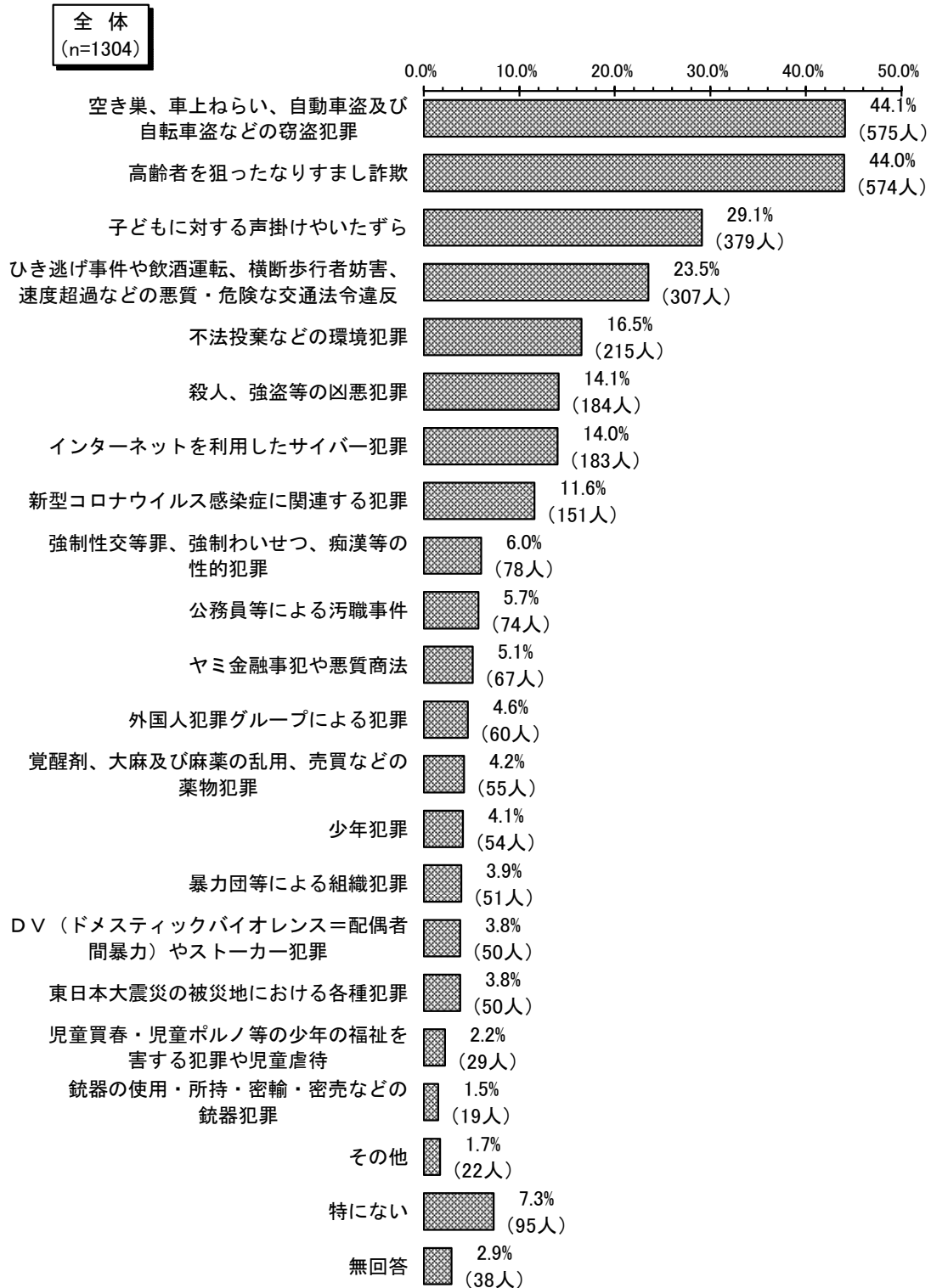


警察に強化してほしい活動は、「パトロール等街頭活動（被災地等における活動を含む。）」(49.5%) が最も多く、約半数を占めている。以下、「犯罪の抑止活動」(39.3%) と「緊急事案に対する迅速な対応」(32.1%) が3割台、「事件・事故に関する情報発信」(23.8%) と「犯罪の検挙活動」(20.9%) が2割台などとなっている。

(7) 重点的に取り締まってほしい犯罪

問 36 現在お住まいの地域で最も不安を感じ、今後重点的に取り締まってほしい犯罪は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。



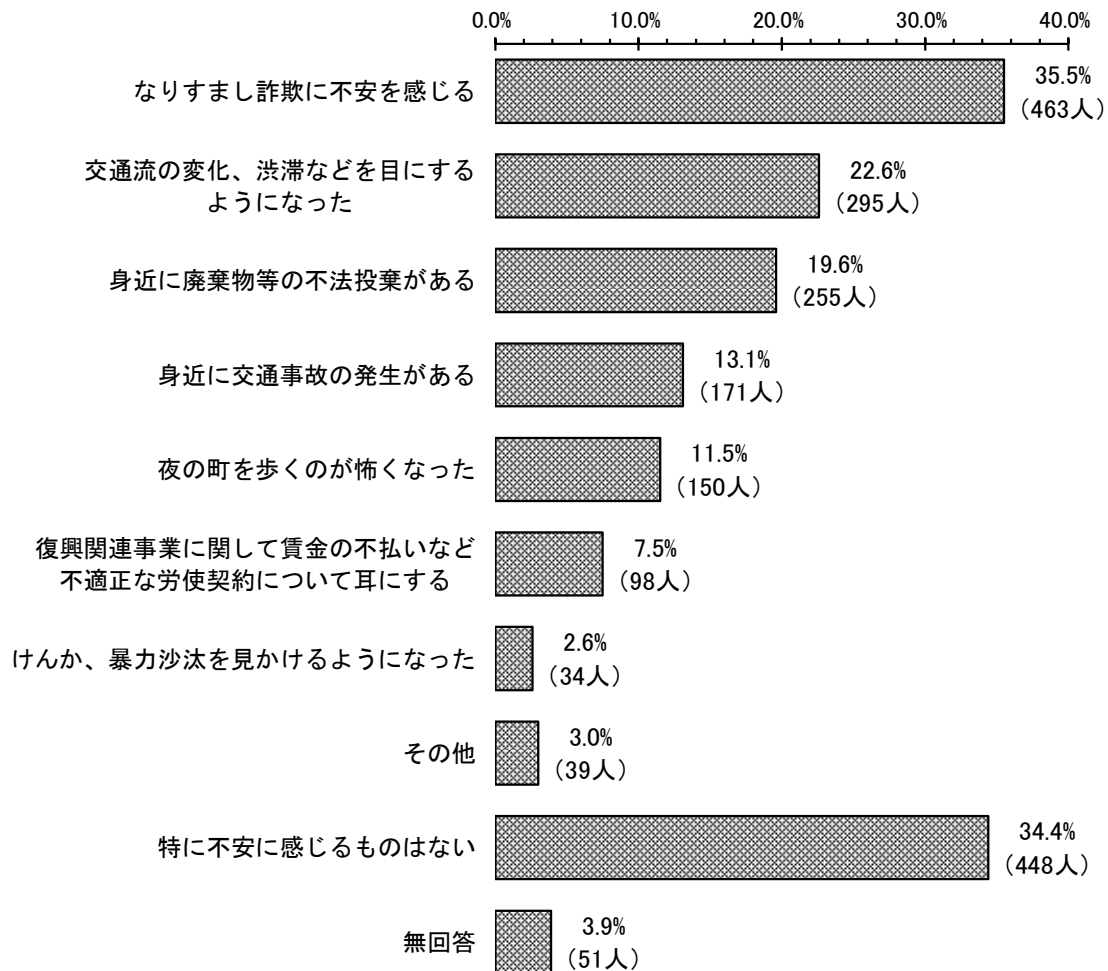
重点的に取り締まってほしい犯罪は、「空き巣、車上ねらい、自動車盗及び自転車盗などの窃盗犯罪」（44.1%）と「高齢者を狙ったなりすまし詐欺」（44.0%）が多く、4割強を占めている。以下、「子どもに対する声掛けやいたずら」（29.1%）が約3割、「ひき逃げ事件や飲酒運転、横断歩行者妨害、速度超過などの悪質・危険な交通法令違反」（23.5%）が2割強などとなっている。

(8) 身近に感じる不安

問 37 震災から10年が経過しましたが、復興に伴い治安面で身近に感じる不安は何ですか。

あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=1304)



身近に感じる不安については、「なりすまし詐欺に不安を感じる」(35.5%)が最も多く、3割強となっている。次いで、「交通流の変化、渋滞などを目にするようになった」(22.6%)が2割強、「身近に廃棄物等の不法投棄がある」(19.6%)、「身近に交通事故の発生がある」(13.1%)、「夜の町を歩くのが怖くなった」(11.5%)が1割台で続いている。

なお、「特に不安を感じるものはない」(34.4%)が3割強を占めている。

Ⅲ 調査票様式

IV 過去に実施した県政世論調査項目一覧

令和2年度（12項目29問） 標本数 1,300 回収率 64.5%

- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) キャッシュレス決済サービスの利用について
- (3) 安全で安心な県づくりについて
- (4) 県総合計画について
- (5) 福島イノベーション・コースト構想について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 水環境について
- (8) ごみ対策について
- (9) 食育について
- (10) 農林水産業について
- (11) 福島県総合教育計画について
- (12) 地域社会の安全・安心（治安）について

令和元年度（11項目32問） 標本数 1,300 回収率 47.5%

- (1) 復興等に関する情報発信について
- (2) 安全で安心な県づくりについて
- (3) 県総合計画について
- (4) 福島イノベーション・コースト構想について
- (5) 土地利用について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 生涯学習について
- (8) 生物多様性について
- (9) ユニバーサルデザインについて
- (10) 農林水産業について
- (11) 地域社会の安全・安心（治安）について

平成30年度（11項目27問） 標本数 1,300 回収率 49.1%

- (1) 福島イノベーション・コースト構想について
- (2) 復興に関する情報発信について
- (3) チャレンジふくしま県民運動について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 水に関する意識について
- (7) 水道水の放射線物質検査について
- (8) 公共交通について
- (9) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (10) 安全で安心な県づくりについて
- (11) 県総合計画について

平成29年度（9項目26問） 標本数 1,300 回収率 54.7%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 福島イノベーション・コースト構想について
- (3) 買い物環境について
- (4) 水に関する意識について
- (5) 農林水産業について
- (6) チャレンジふくしま県民運動について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成28年度（7項目26問） 標本数 1,300 回収率 54.3%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 農林水産業について
- (3) 生物多様性について
- (4) 高校教育について
- (5) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (6) 安全で安心な県づくりについて
- (7) 県総合計画について

平成27年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 54.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 青少年の健全育成について
- (4) ユニバーサルデザインについて
- (5) 農林水産業について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成26年度（8項目28問） 標本数 1,300 回収率 57.0%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 食育について
- (4) 農林水産業について
- (5) 廃棄物対策について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成25年度（8項目24問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 復興に関する情報発信について
- (2) 心の健康について
- (3) 救急医療について
- (4) 農林水産業について
- (5) 生物多様性について
- (6) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて
- (8) 県総合計画について

平成24年度（9項目33問） 標本数 1,300 回収率 60.7%

- (1) 環境について
- (2) 水に関する意識について
- (3) 子育て支援策について
- (4) 青少年の健全育成について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) ジェネリック医薬品（後発医薬品）について
- (7) 地域社会の安全・安心（治安）について
- (8) 安全で安心な県づくりについて
- (9) 県総合計画について

平成23年度（7項目24問） 標本数 1,300 回収率 63.4%

- (1) 震災時及び現在における情報収集について
- (2) 男女共同参画の視点からの災害対応について
- (3) 心の健康について
- (4) 震災後の商業環境について
- (5) 芸術文化・スポーツ活動について
- (6) 震災後の県内の安全・安心（治安）について
- (7) 安全で安心な県づくりについて

平成22年度（8項目30問） 標本数 1,300 回収率 60.8%

- (1) 福島県農林水産物の消費拡大について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 生活習慣病予防対策について
- (4) 水について
- (5) 生物多様性について
- (6) 廃棄物対策について
- (7) 福島県総合計画について
- (8) 安全で安心な県づくりについて

平成21年度（7項目30問） 標本数 1,300 回収率 65.1%

- (1) 福島県の農業・農村の振興について
- (2) 地域社会の安全・安心について
- (3) 食育について
- (4) 環境について
- (5) 青少年の健全育成について
- (6) 土地利用について
- (7) 福島県の新しい総合計画について

平成20年度（5項目28問） 標本数 1,300 回収率 64.2%

- (1) 安心・安全な県産農産物の生産拡大について
- (2) 地域社会の安全、安心について
- (3) 保健福祉関連事業について
- (4) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について
- (5) ユニバーサルデザインについて

平成19年度（5項目23問） 標本数 1,300 回収率 61.8%

- (1) 「ふくしま食と農の絆づくり運動」について
- (2) 警察活動について
- (3) 「がん」に関する意識について
- (4) 県庁の組織名及び職名について
- (5) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成18年度（6項目21問） 標本数 1,300 回収率 58.5%

- (1) 犯罪に関する意識について
- (2) 化学物質について
- (3) 有機農産物に対する認知度と消費動向について
- (4) 食育について
- (5) “うつくしま、ふくしま。” 県民運動について
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成17年度（6項目24問） 標本数 1,300 回収率 59.3%

- (1) 森林と県民生活について
- (2) 水について
- (3) 電子社会の推進と現状について
- (4) 運動・スポーツに関する実態について
- (5) ユニバーサルデザインについて
- (6) 福島県新長期総合計画「うつくしま21」について

平成16年度（5項目27問） 標本数1,300 回収率61.8%

- (1) 安全に安心して暮らせる地域社会について
- (2) 地域温暖化防止のためのエコライフについて
- (3) 心の健康について
- (4) 文化に関する意識について
- (5) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について

平成15年度（5項目34問） 標本数1,300 回収率62.2%

- (1) お米の消費実態と福島米への要望について
- (2) 交通安全教育について
- (3) 環境保全への取り組みについて
- (4) エネルギー政策について
- (5) 県政への要望について

平成14年度（4項目30問） 標本数1,000 回収率60.5%

- (1) 地産地消について
- (2) IT革命の現状と課題について
- (3) ボランティア活動について
- (4) 食品の安全確保について

平成13年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率58.0%

- (1) ユニバーサルデザインについて
- (2) “うつくしま、ふくしま。”県民運動について
- (3) 環境保全について
- (4) 県民生活と森林づくり運動について
- (5) 新エネルギーについて
- (6) 人権問題について

平成12年度（4項目31問） 標本数1,000 回収率62.2%

- (1) 行政情報化について
- (2) 魅力ある観光地づくりについて
- (3) うつくしま未来博について
- (4) 運動・スポーツについて

平成11年度（6項目34問） 標本数1,000 回収率64.4%

- (1) 福島県の教育について
- (2) 高齢社会について
- (3) 住民参加について
- (4) 行財政改革について
- (5) 土地利用について

(6) 県への要望について

平成10年度（6項目33問） 標本数1,000 回収率66.9%

- (1) 子育てについて
- (2) 生涯学習について
- (3) 安全な生活について
- (4) 魅力ある観光地づくりについて
- (5) 地方分権について
- (6) 県への要望について

令和3年度

県政世論調査

結果報告書

〈概要版〉

福島県 総務部 県民広聴室

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話 (024) 521-7013